

Ⅲ 調査結果

1 第1回アンケートの調査結果

1.1 新型コロナウイルス感染症について

(1) 新型コロナウイルスの緊急事態宣言下及び解除後における生活行動について

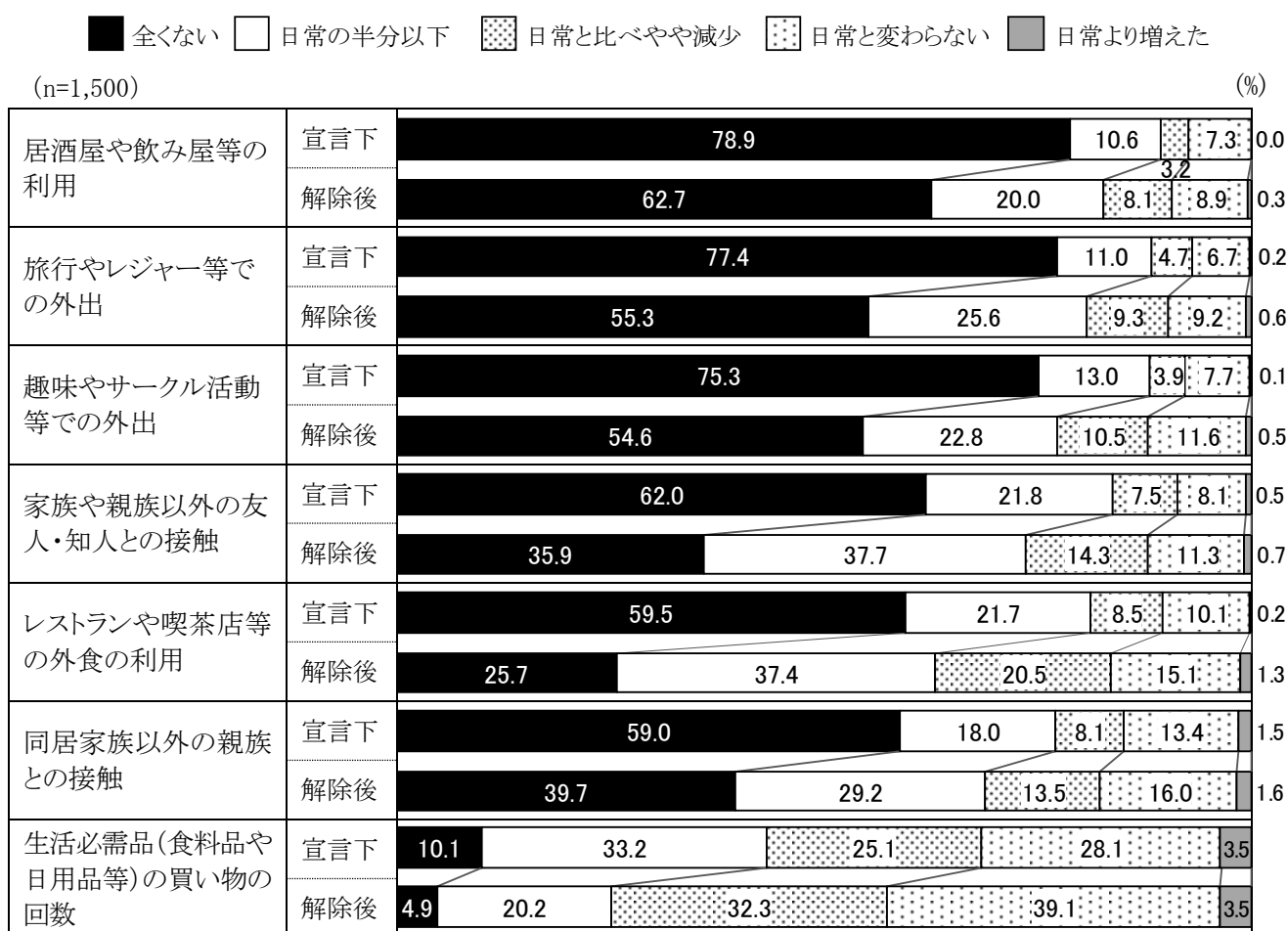
Q1. 新型コロナウイルスの緊急事態宣言下（令和2年4月7日～5月25日）及び解除後（令和2年5月26日以降）における生活行動について、項目ごとに最もあてはまるものを、宣言下と解除後でそれぞれ1つずつ選んでください。

下記7項目について、緊急事態宣言下と解除後、それぞれの頻度をたずねた。（調査期間：令和2(2020)年9月4日～14日）

「宣言下」では「全くない」と回答した人は「居酒屋や飲み屋等の利用」「旅行やレジャー等での外出」「趣味やサークル活動等での外出」の3項目で75%を超えて多く、「家族や親族以外の友人・知人との接触」「レストランや喫茶店等の外食の利用」「同居家族以外の親族との接触」では60%前後であった。また、「生活必需品（食料品や日用品等）の買い物の回数」においても、1割の人が「全くない」と回答している。

「解除後」では、すべての項目で「全くない」の割合が下がり、特に「レストランや喫茶店等の外食の利用」では宣言下の59.5%から解除後は25.7%と大きな変化が見られたものの、「生活必需品（食料品や日用品等）の買い物の回数」以外の項目では「全くない」と「日常の半分以下」の合計が6割～8割程度となるなど、引き続き自粛傾向がうかがえる。

【図表 1】 新型コロナウイルスの緊急事態宣言下及び解除後における生活行動について 宣言下／解除後

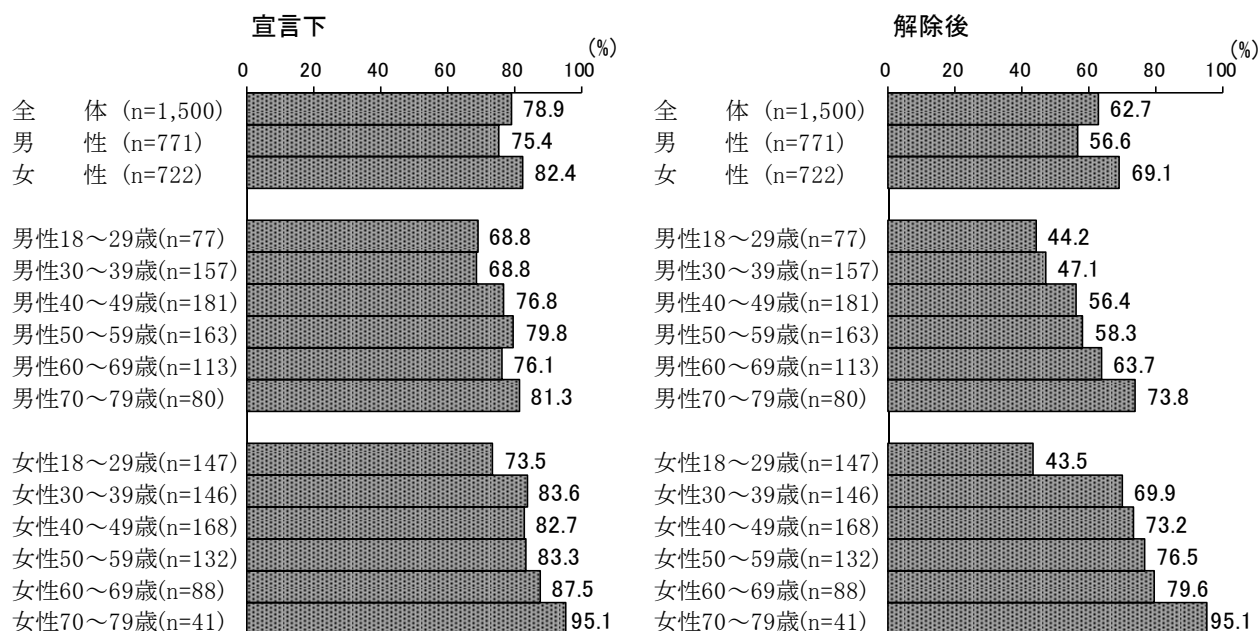


「全くない」と回答した人について性／年齢別に見ると、「生活必需品（食料品や日用品等）の買い物の回数」を除いたほとんどの項目で、概ね年齢が低いほど「全くない」が少なくなっている。解除後においてその傾向は顕著であり、特に男性18～29歳・30～39歳、女性18～29歳では宣言下の自粛の度合いが弱く、解除後には更に自粛を緩めている傾向が強いことがうかがえる。

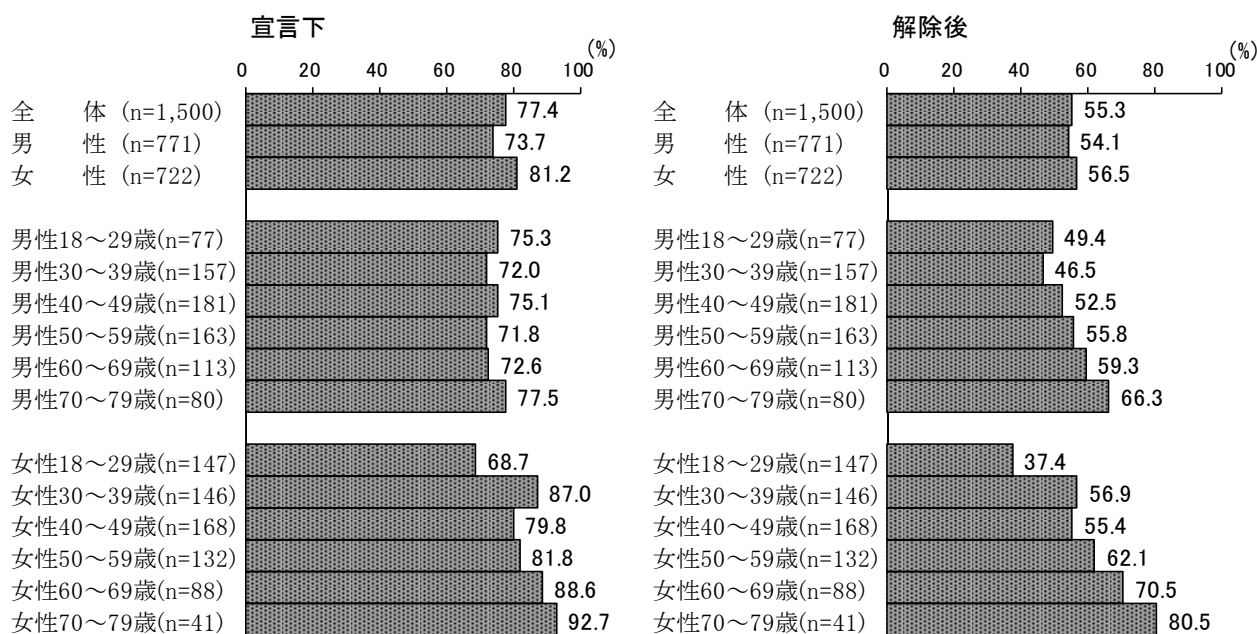
「生活必需品（食料品や日用品等）の買い物の回数」については、男女ともに18～29歳で「全くない」が最も多くなっている。

【図表 2】新型コロナウイルスの緊急事態宣言下及び解除後における生活行動について（「全くない」回答者）
（性／年齢別）

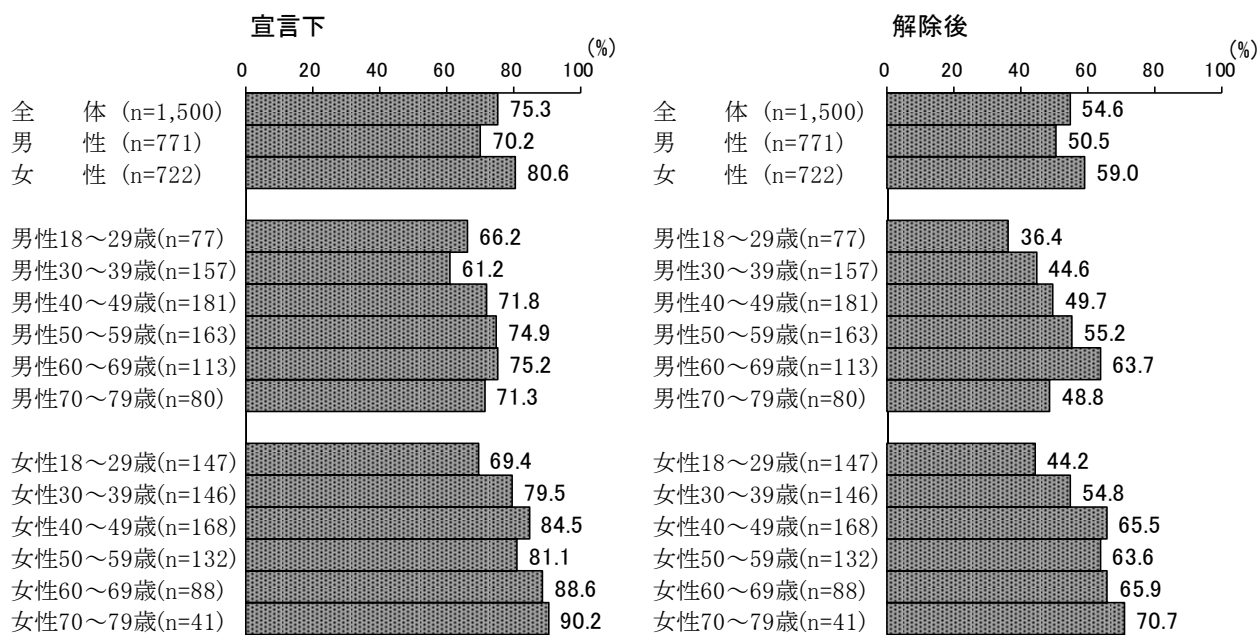
■ 居酒屋や飲み屋等の利用



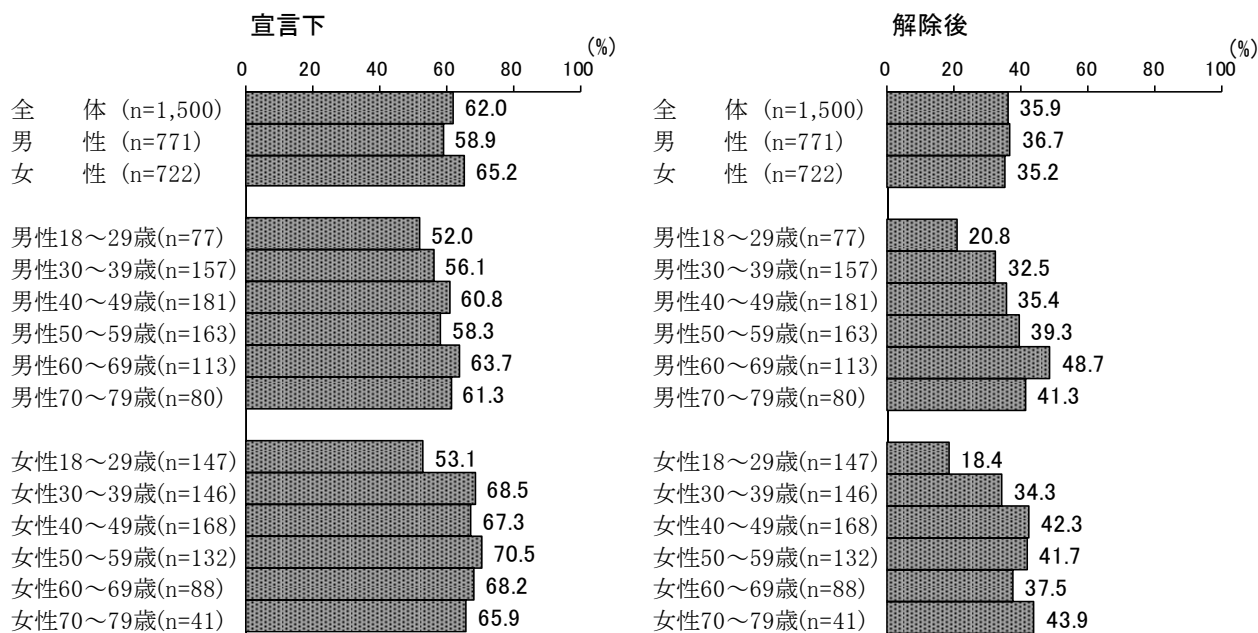
■ 旅行やレジャー等での外出



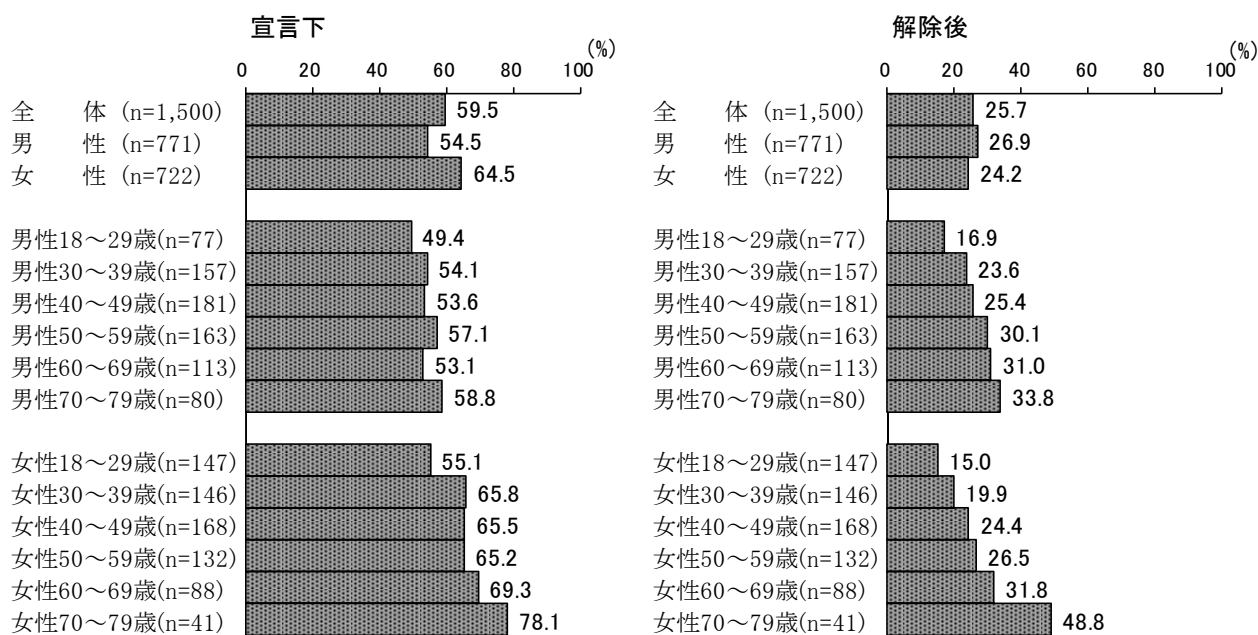
■ 趣味やサークル活動等での外出



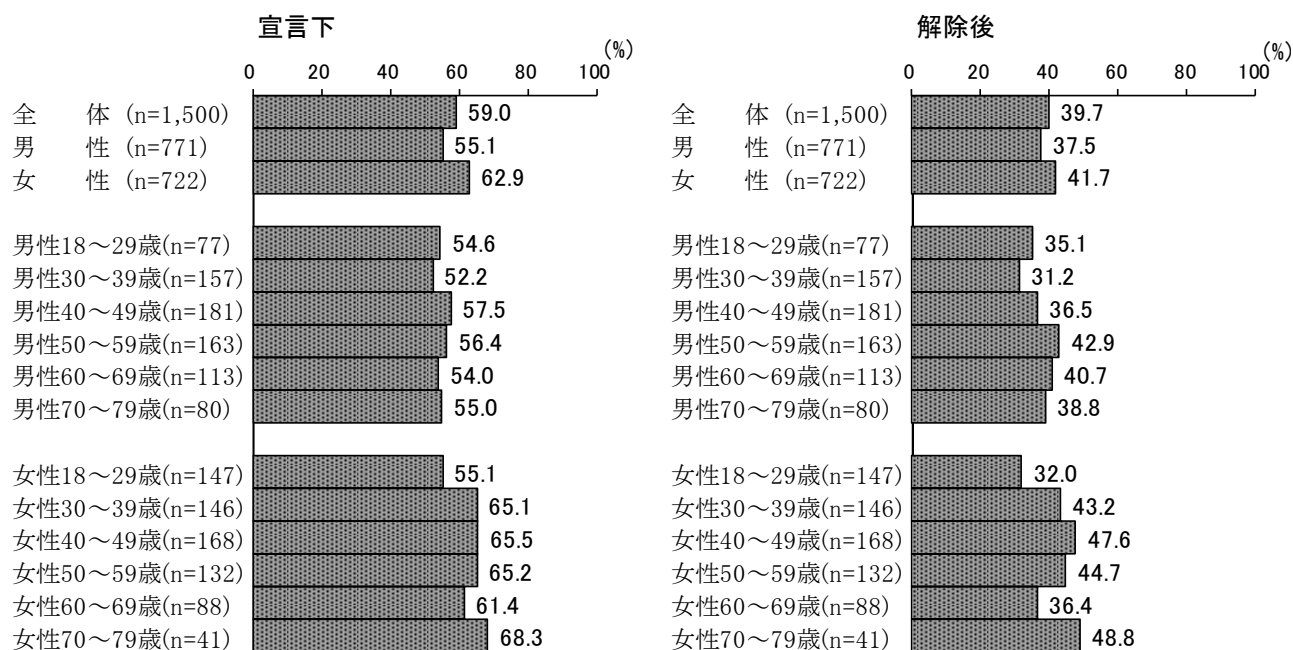
■ 家族や親族以外の友人・知人との接触



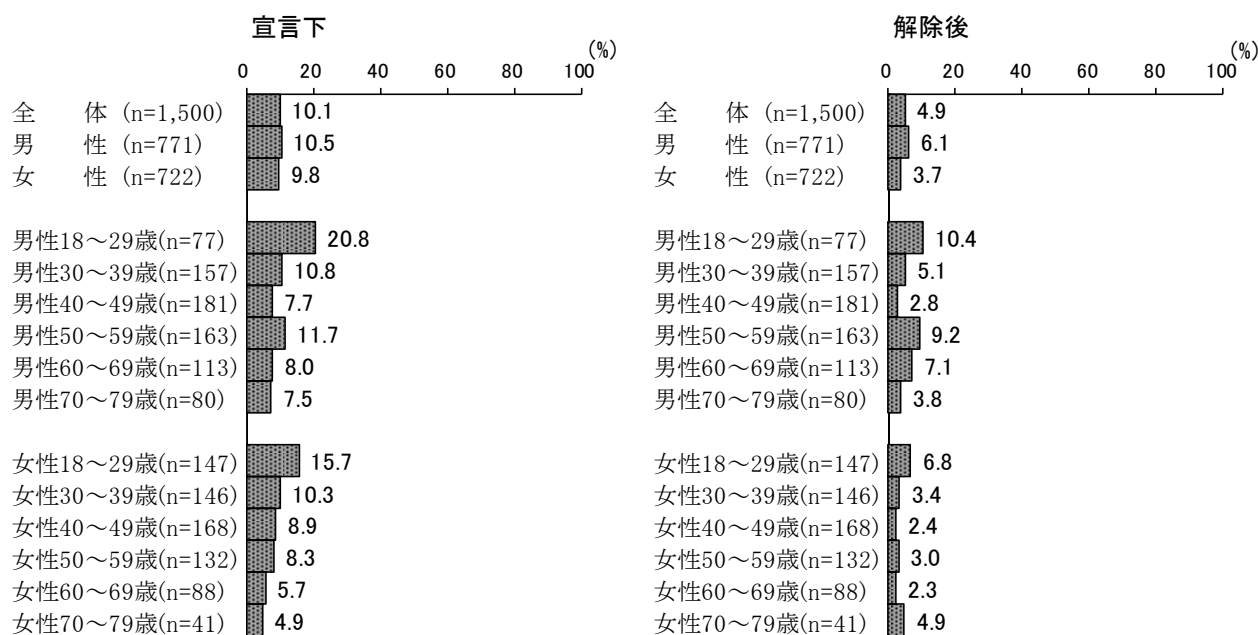
■ レストランや喫茶店等の外食の利用



■ 同居家族以外の親族との接触



■ 生活必需品(食料品や日用品等)の買い物の回数

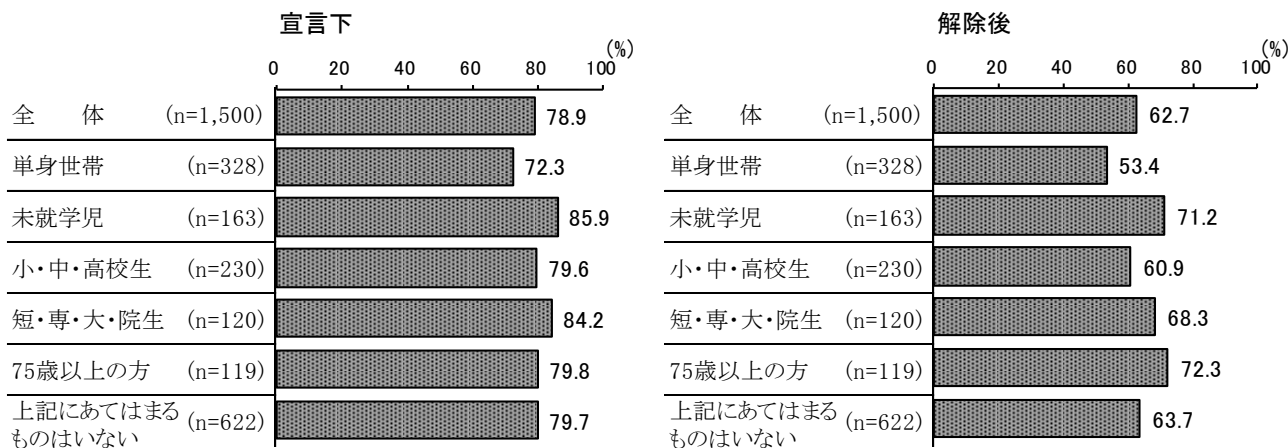


「全くない」と回答した人について同居者別に見ると、宣言下は「旅行やレジャー等での外出」、「趣味やサークル活動等での外出」、「同居家族以外の親族との接触」の3項目で「75歳以上の方」のいる世帯が最も多く、「居酒屋や飲み屋等の利用」、「レストランや喫茶店等の外食の利用」の2項目で「未就学児」のいる世帯が最も多くなっている。

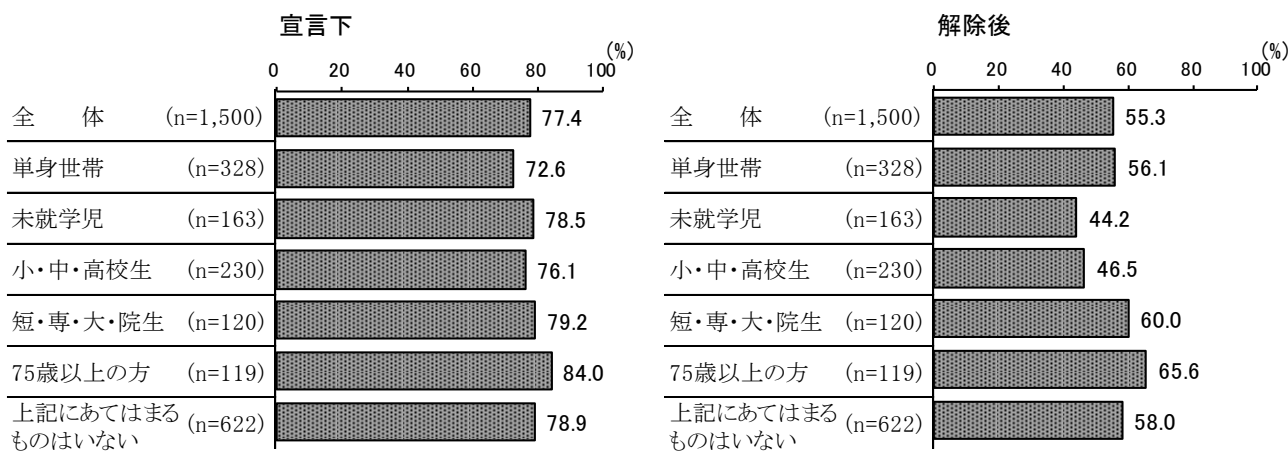
解除後では、「未就学児」のいる世帯においては「旅行やレジャー等での外出」、「趣味やサークル活動等での外出」、「家族や親族以外の友人・知人との接触」、「レストランや喫茶店等の外食の利用」、「同居家族以外の親族との接触」の5項目で宣言下との差が最も大きくなっており、自粛を緩めている傾向が強いことがうかがえる。

**【図表 3】 新型コロナウイルスの緊急事態宣言下及び解除後における生活行動について（「全くない」回答者）
（同居者別）**

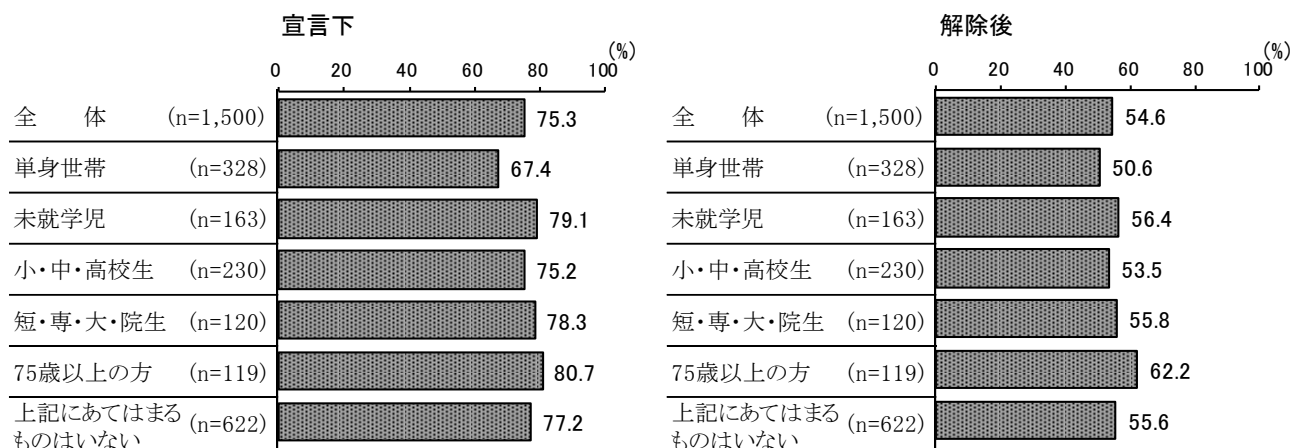
■ 居酒屋や飲み屋等の利用



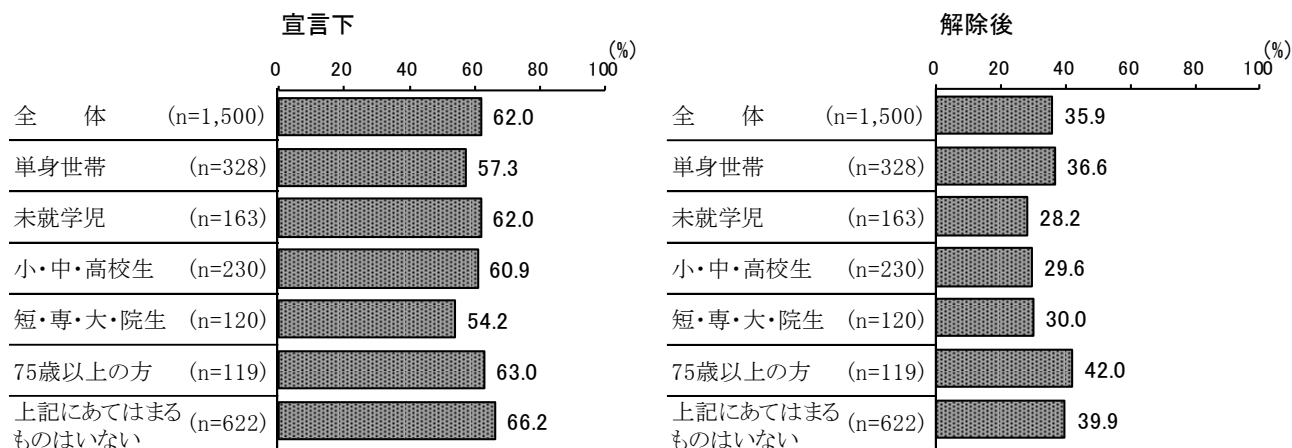
■ 旅行やレジャー等での外出



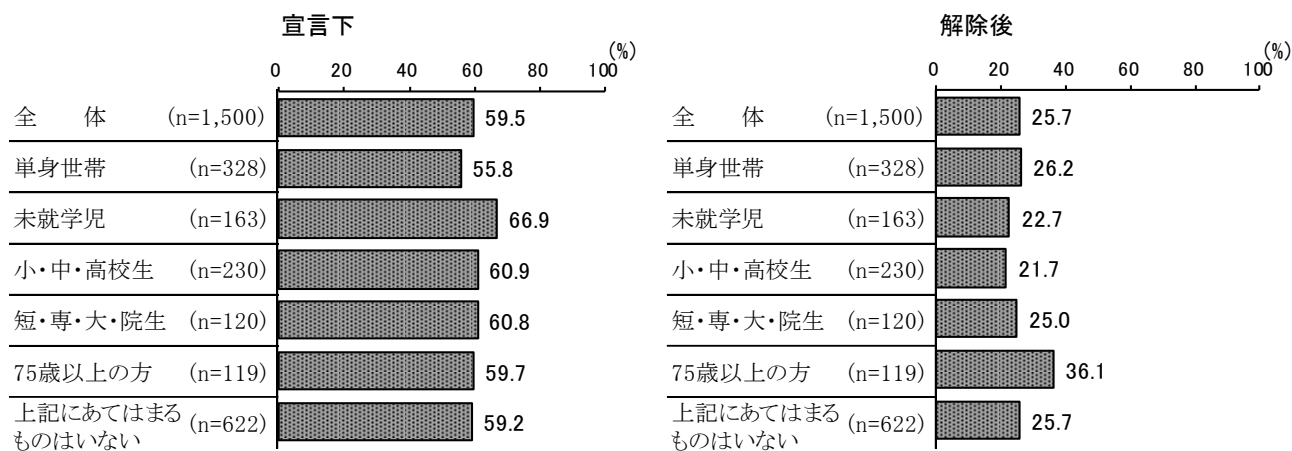
■ 趣味やサークル活動等での外出



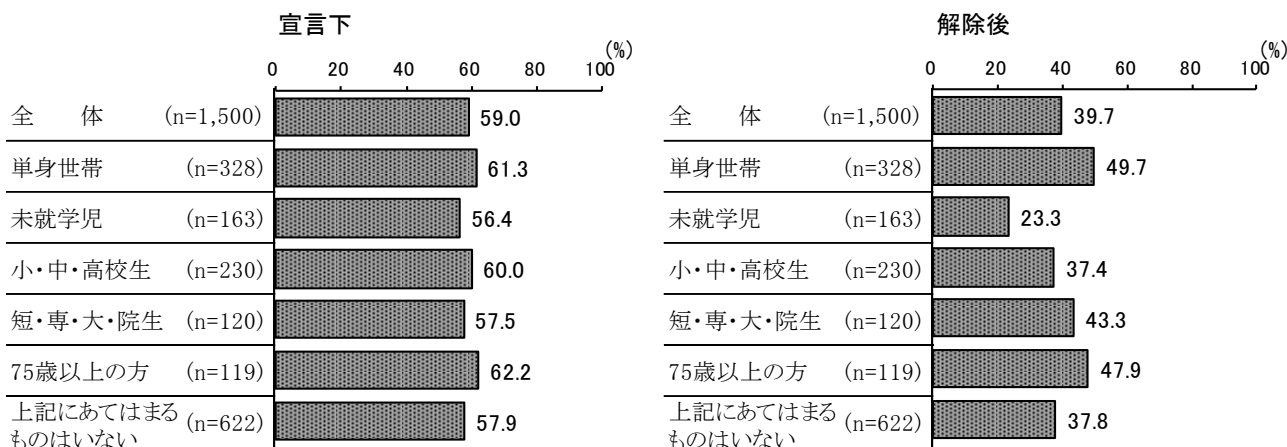
■ 家族や親族以外の友人・知人との接触



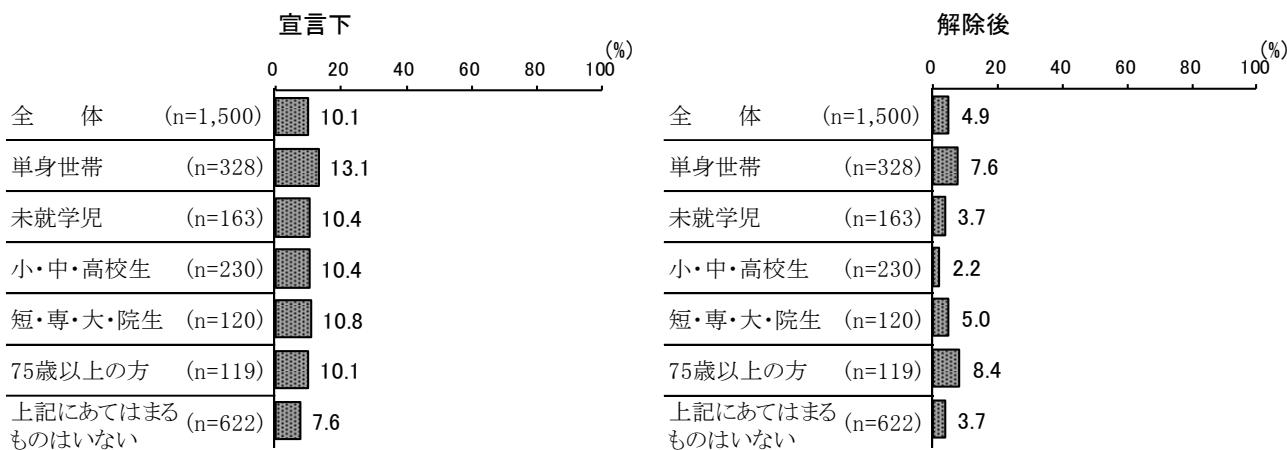
■ レストランや喫茶店等の外食の利用



■ 同居家族以外の親族との接触



■ 生活必需品(食料品や日用品等)の買い物の回数



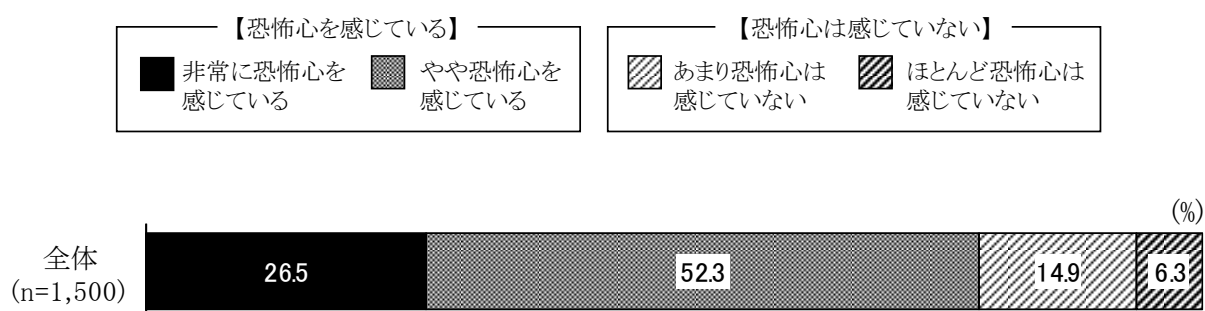
※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

(2) 新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心

Q2. あなたは、あなた自身が新型コロナウイルス感染症に感染することに、どの程度恐怖心を感じられていますか。

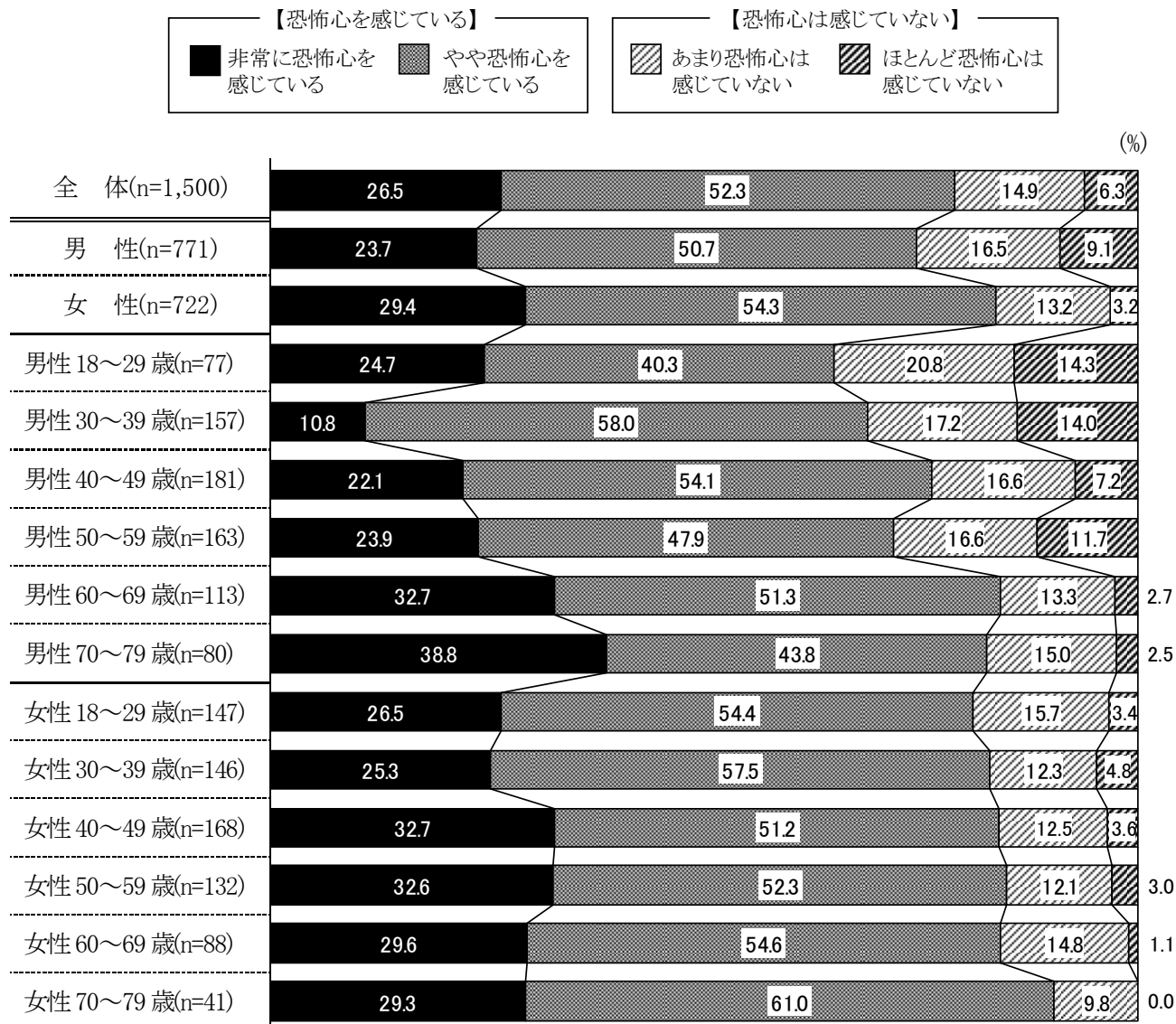
「非常に恐怖心を感じている」と「やや恐怖心を感じている」を合計した【恐怖心を感じている】は78.8%、「あまり恐怖心は感じていない」と「ほとんど恐怖心は感じていない」を合計した【恐怖心は感じていない】は21.2%であった。

【図表 4】 新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心



性／年齢別に見ると、男性よりも女性の方が【恐怖心を感じている】が多くなっている（男性：74.4%、女性：83.7%）。また、女性は年齢により大きな違いは見られないものの、男性では「非常に恐怖心を感じている」が30～39歳で10.8%である一方、70～79歳は38.8%と多くなっている。

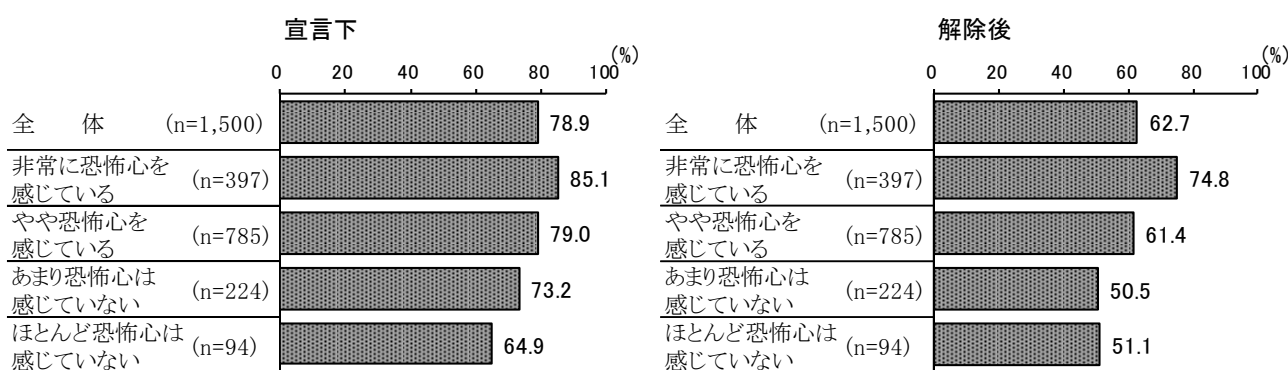
【図表 5】新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心（性／年齢別）



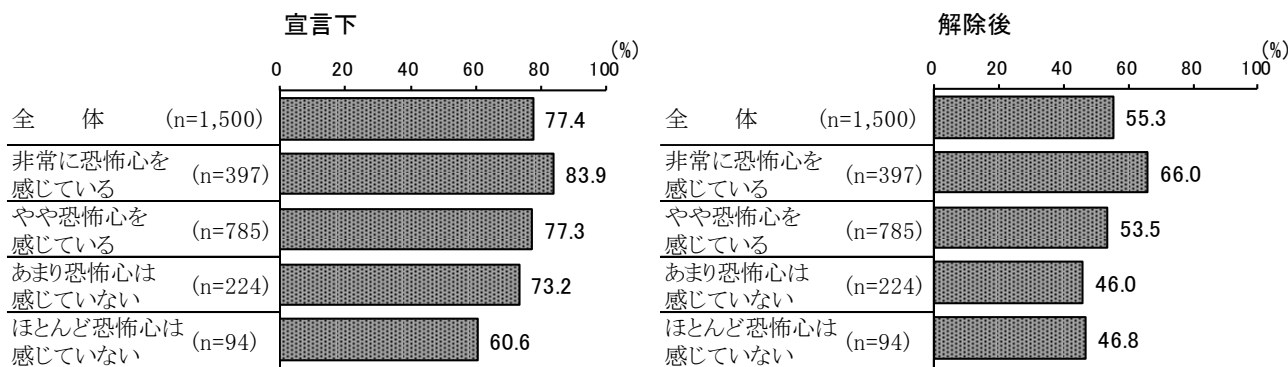
Q1の「新型コロナウイルスの緊急事態宣言下及び解除後における生活行動について」を「新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心」の回答別に見ると、「生活必需品（食品や日用品等）の買い物の回数」以外の項目で「全くない」の回答割合は「非常に恐怖心を感じている」人で最も多く、恐怖心を強く感じている人ほど自粛の傾向が強いことがうかがえる。

【図表 6】新型コロナウイルスの緊急事態宣言下及び解除後における生活行動について（「全くない」回答者）
（「新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心」回答別）

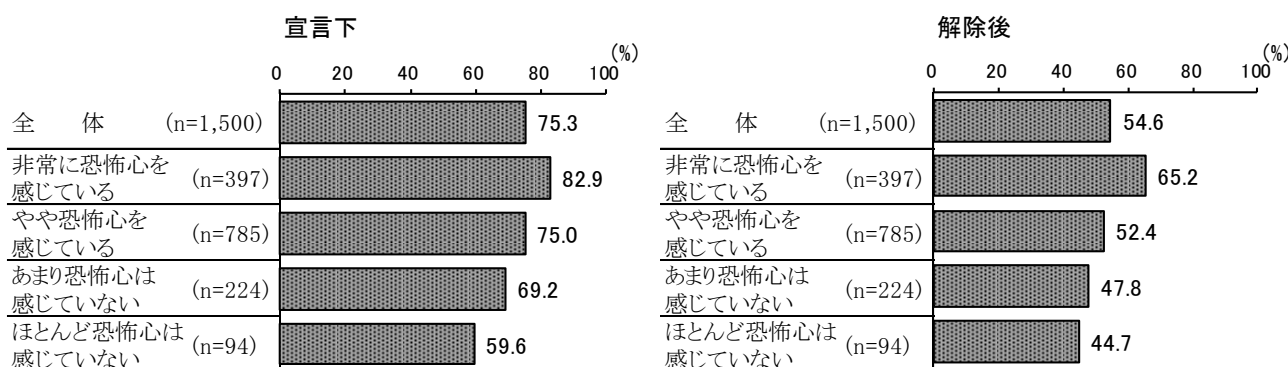
■ 居酒屋や飲み屋等の利用



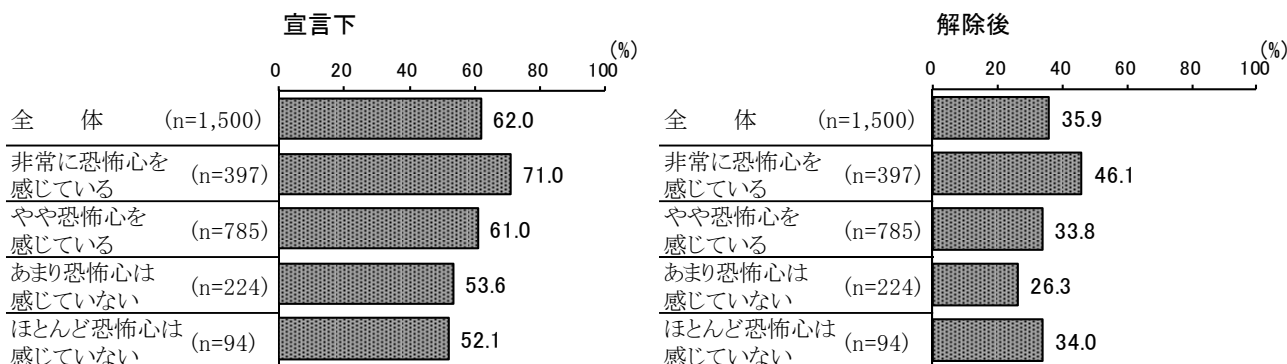
■ 旅行やレジャー等での外出



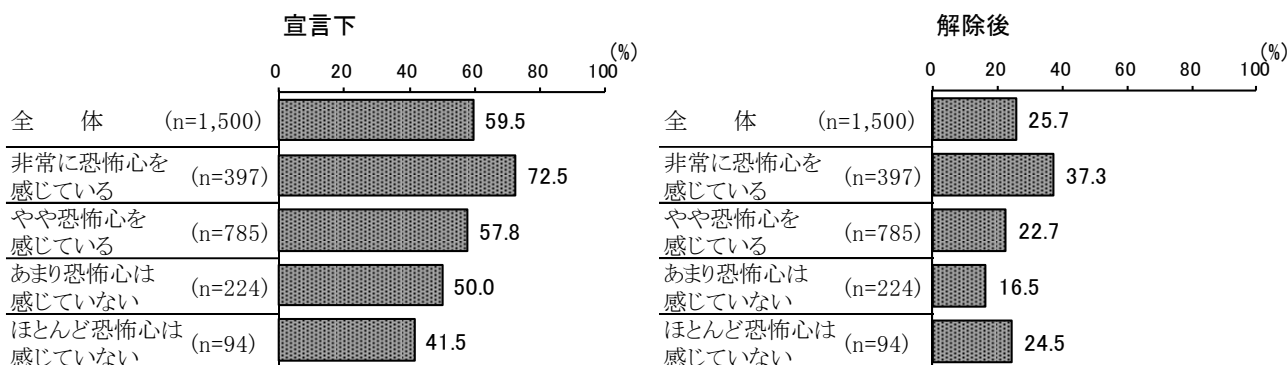
■ 趣味やサークル活動等での外出



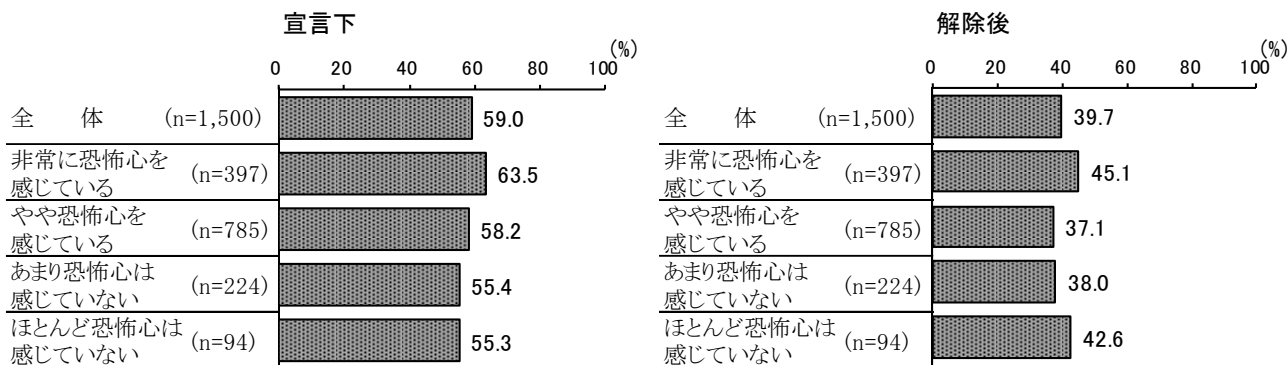
■ 家族や親族以外の友人・知人との接触



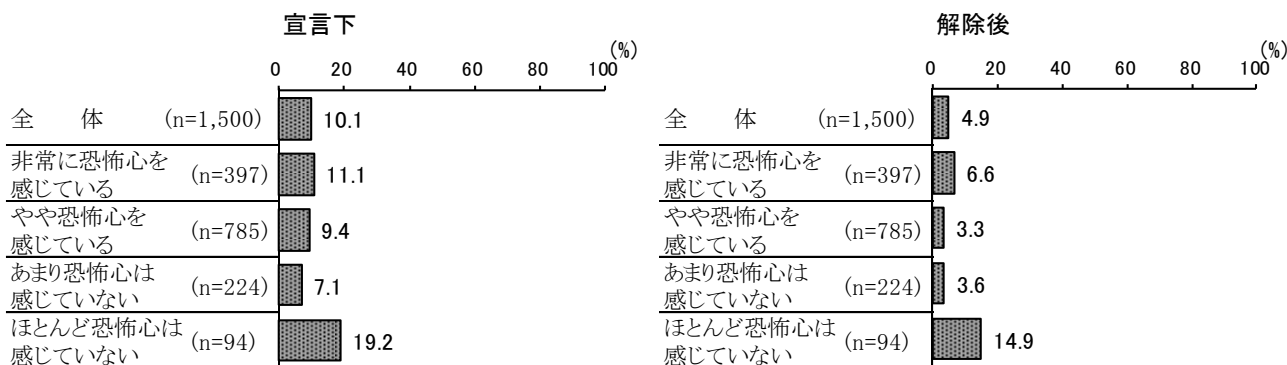
■ レストランや喫茶店等の外食の利用



■ 同居家族以外の親族との接触



■ 生活必需品(食料品や日用品等)の買い物の回数

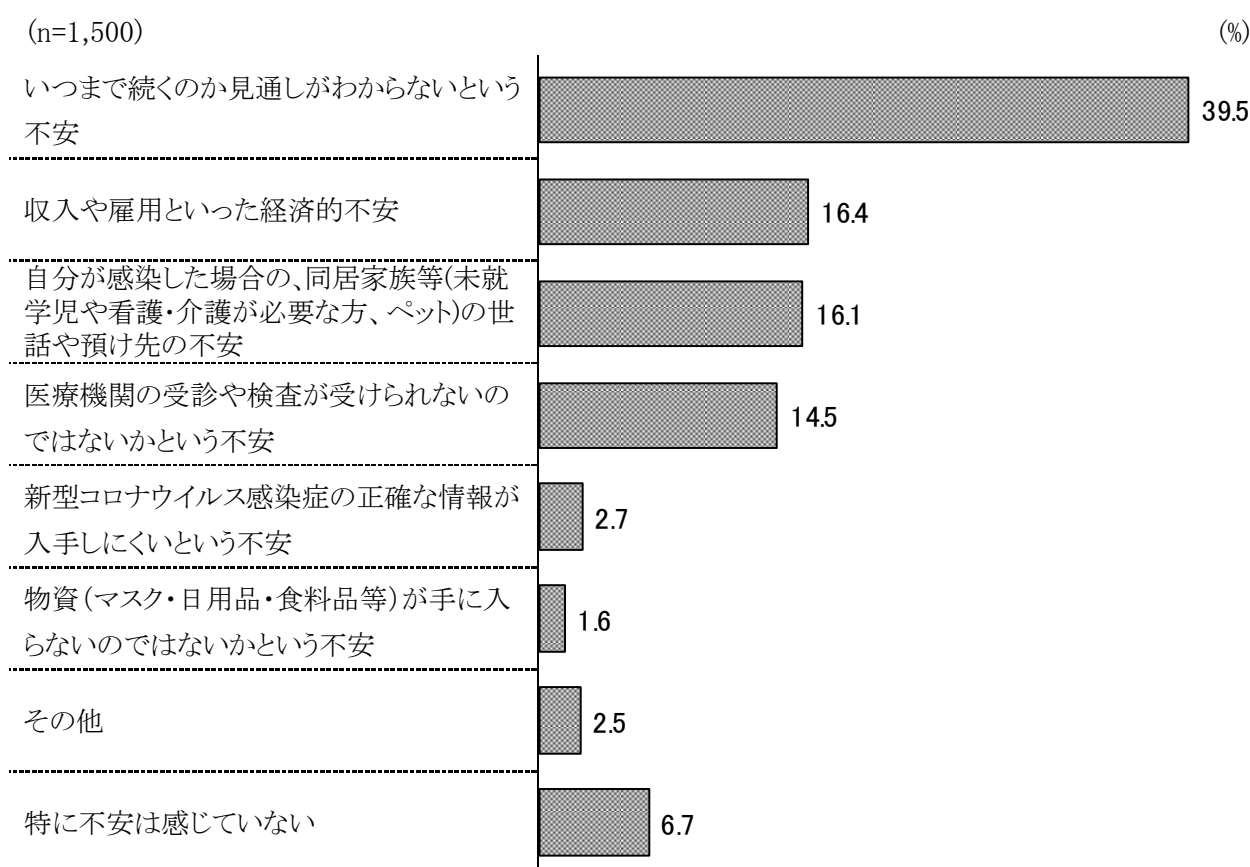


(3) 新型コロナウイルス感染症に感染すること以外に感じている不安

Q3. あなたは、自分やご家族が感染すること以外に、どのような不安を感じていますか。最も不安に感じている項目を1つ選んでください。

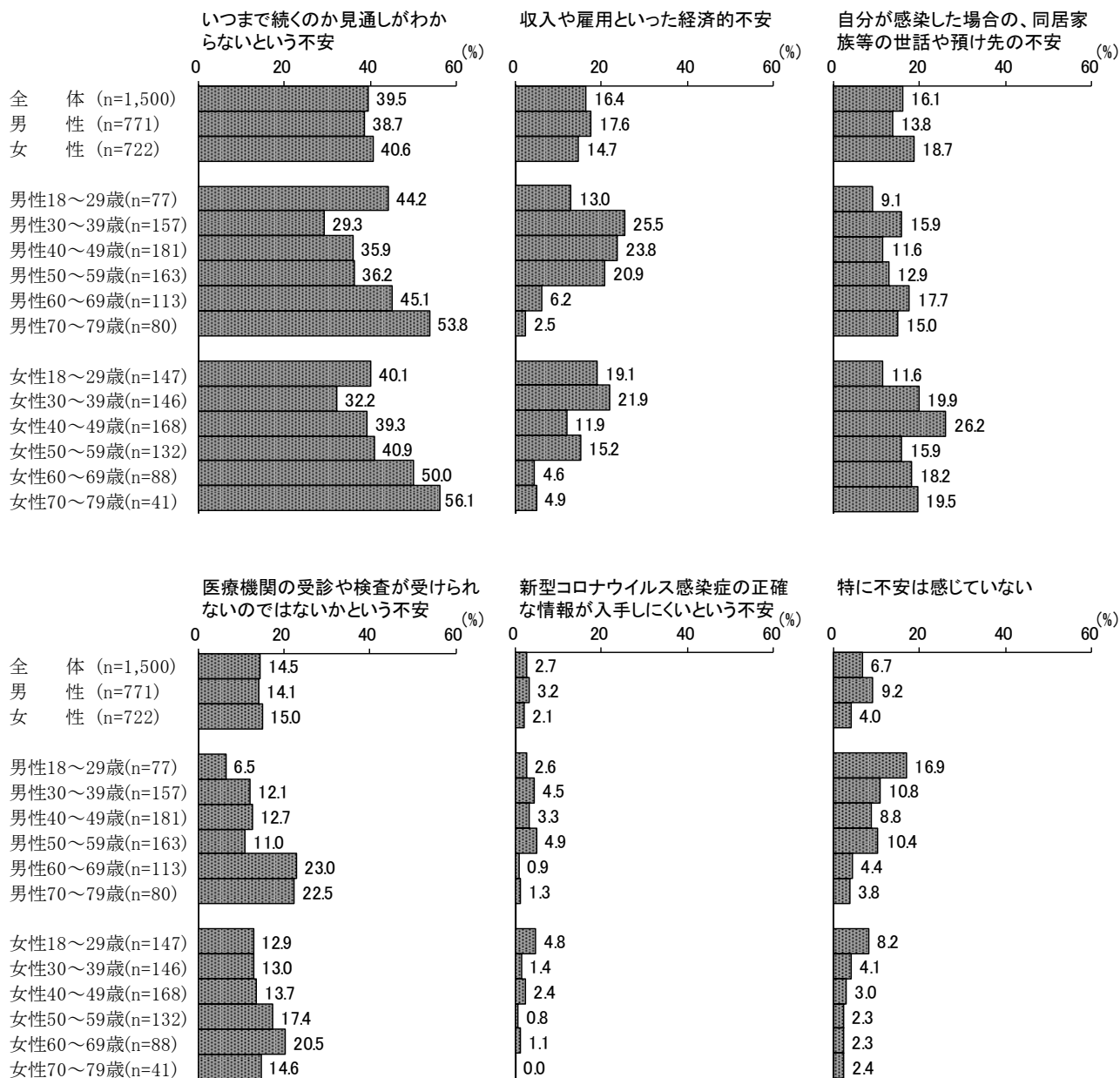
「いつまで続くのか見通しがわからないという不安」が39.5%と最も多く、次いで「収入や雇用といった経済的不安」(16.4%)、「自分が感染した場合の、同居家族等(未就学児や看護・介護が必要な方、ペット)の世話や預け先の不安」(16.1%)と続いている。一方で、「特に不安は感じていない」は6.7%であった。

【図表 7】 新型コロナウイルス感染症に感染すること以外に感じている不安



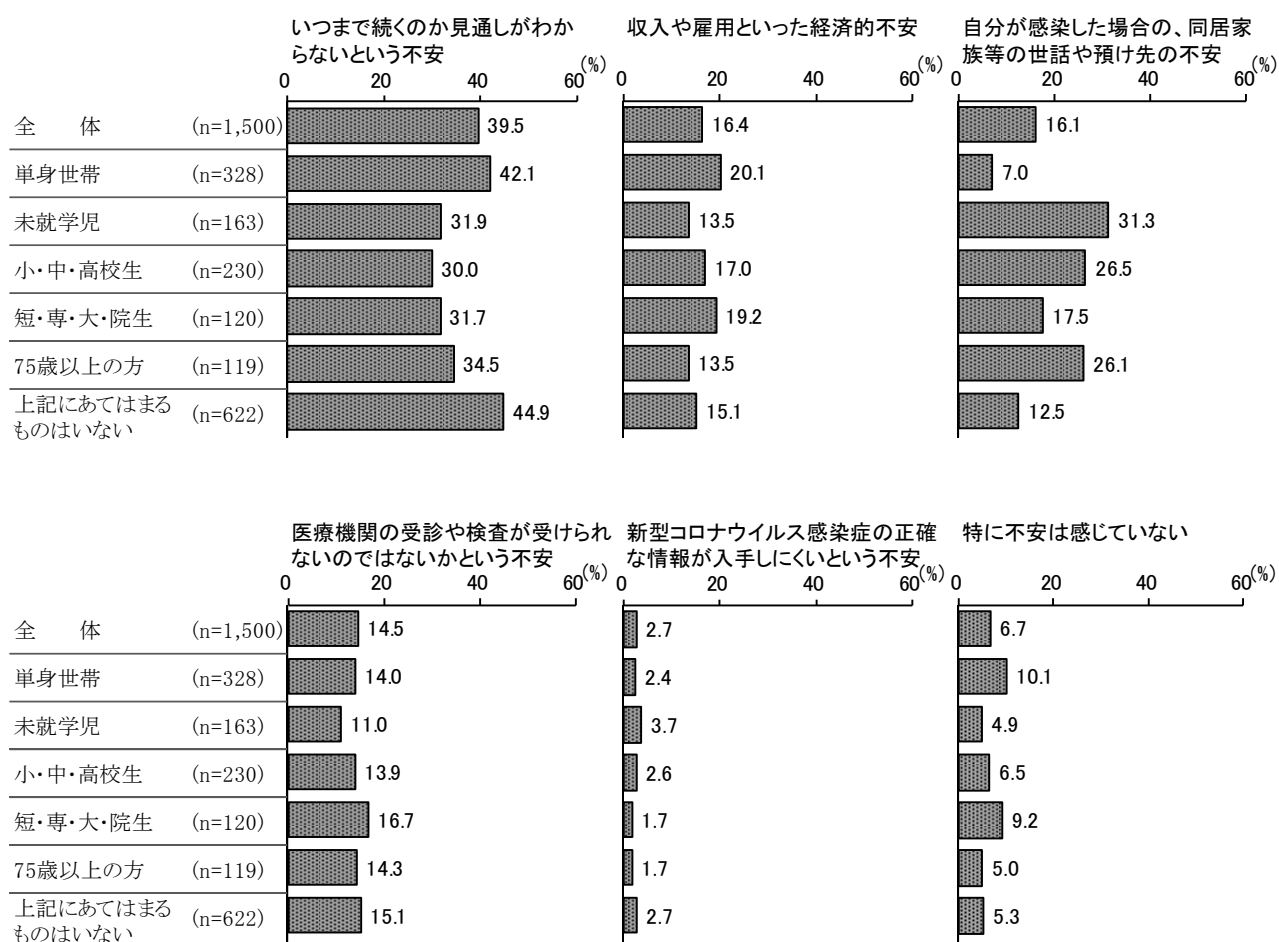
性／年齢別に見ると、「いつまで続くのか見通しがわからないという不安」は男女ともに70～79歳が最も多い。「収入や雇用といった経済的不安」は男女ともに30～39歳が最も多く、「自分が感染した場合の、同居家族等（未就学児や看護・介護が必要な方、ペット）の世話や預け先の不安」は女性40～49歳が最も多い。一方で、「特に不安は感じていない」は男女ともに18～29歳が最も多く、概ね年齢が高くなるほど少なくなっている。

【図表 8】新型コロナウイルス感染症に感染すること以外に感じている不安 《上位6項目》
(性／年齢別)



同居者別に見ると、「自分が感染した場合の、同居家族等（未就学児や看護・介護が必要な方、ペット）の世話や預け先の不安」では「未就学児」のいる世帯が31.3%と最も多く、次いで「小学生・中学生・高校生」のいる世帯が26.5%、「75歳以上の方」のいる世帯が26.1%と続いている。

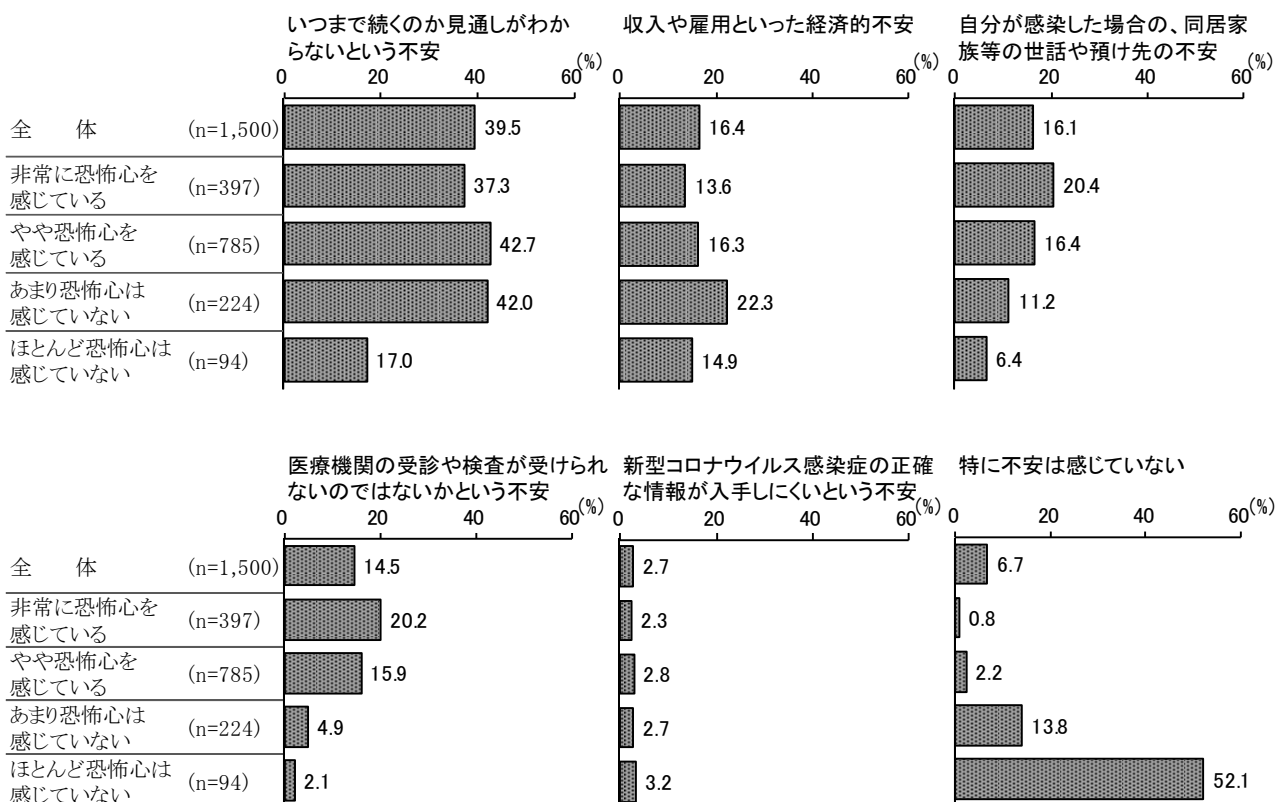
【図表 9】新型コロナウイルス感染症に感染すること以外に感じている不安 《上位6項目》
(同居者別)



※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

Q2の「新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心」の回答別に見ると、「自分が感染した場合の、同居家族等（未就学児や看護・介護が必要な方、ペット）の世話や預け先の不安」や「医療機関の受診や検査が受けられないのではないかという不安」では、恐怖心を感じている人ほど回答割合が多くなっている。

【図表 10】新型コロナウイルス感染症に感染すること以外に感じている不安 <上位6項目> (「新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心」回答別)

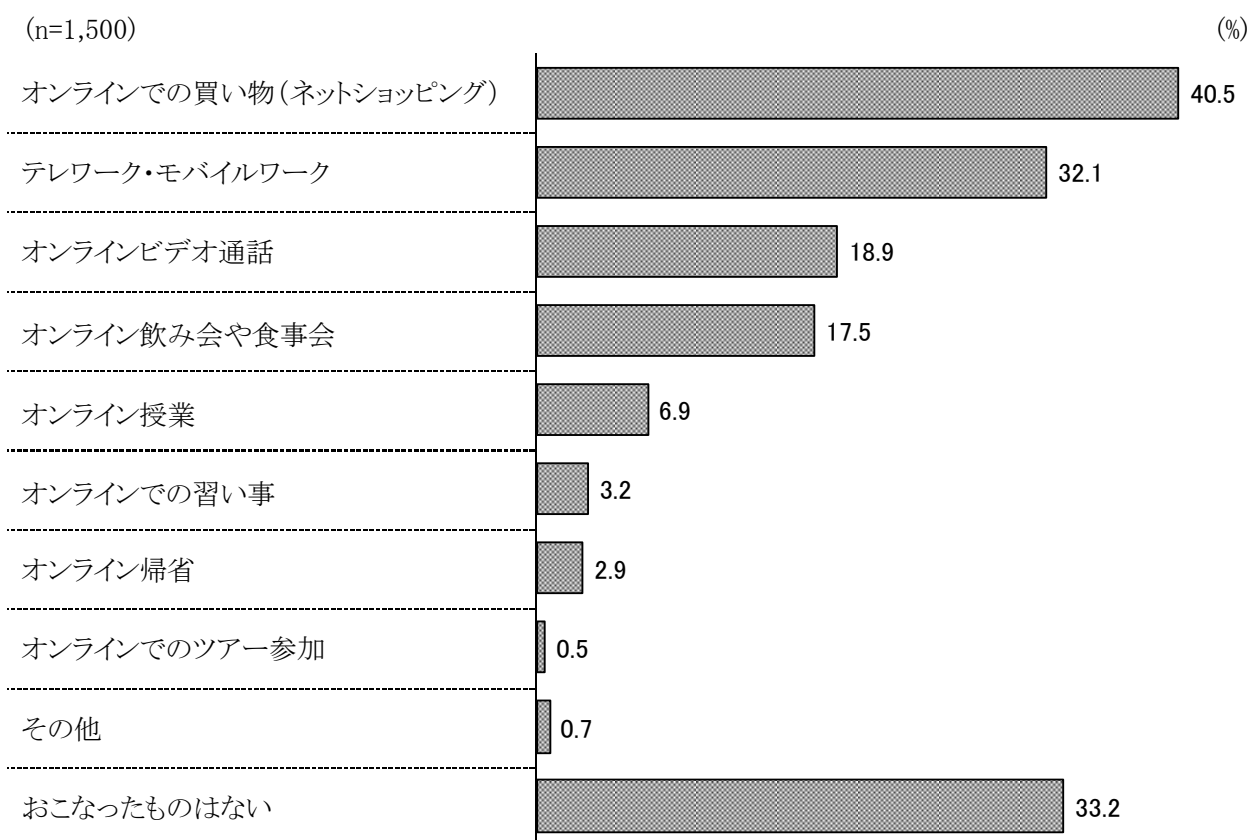


(4) 新型コロナウイルス感染症発生後のオンライン通信を利用した行動

Q 4. 新型コロナウイルス感染症が発生後、あなたは次のオンライン（インターネットにつながっている状態）通信を利用した行動をしましたか。おこなった項目をすべて選んでください。

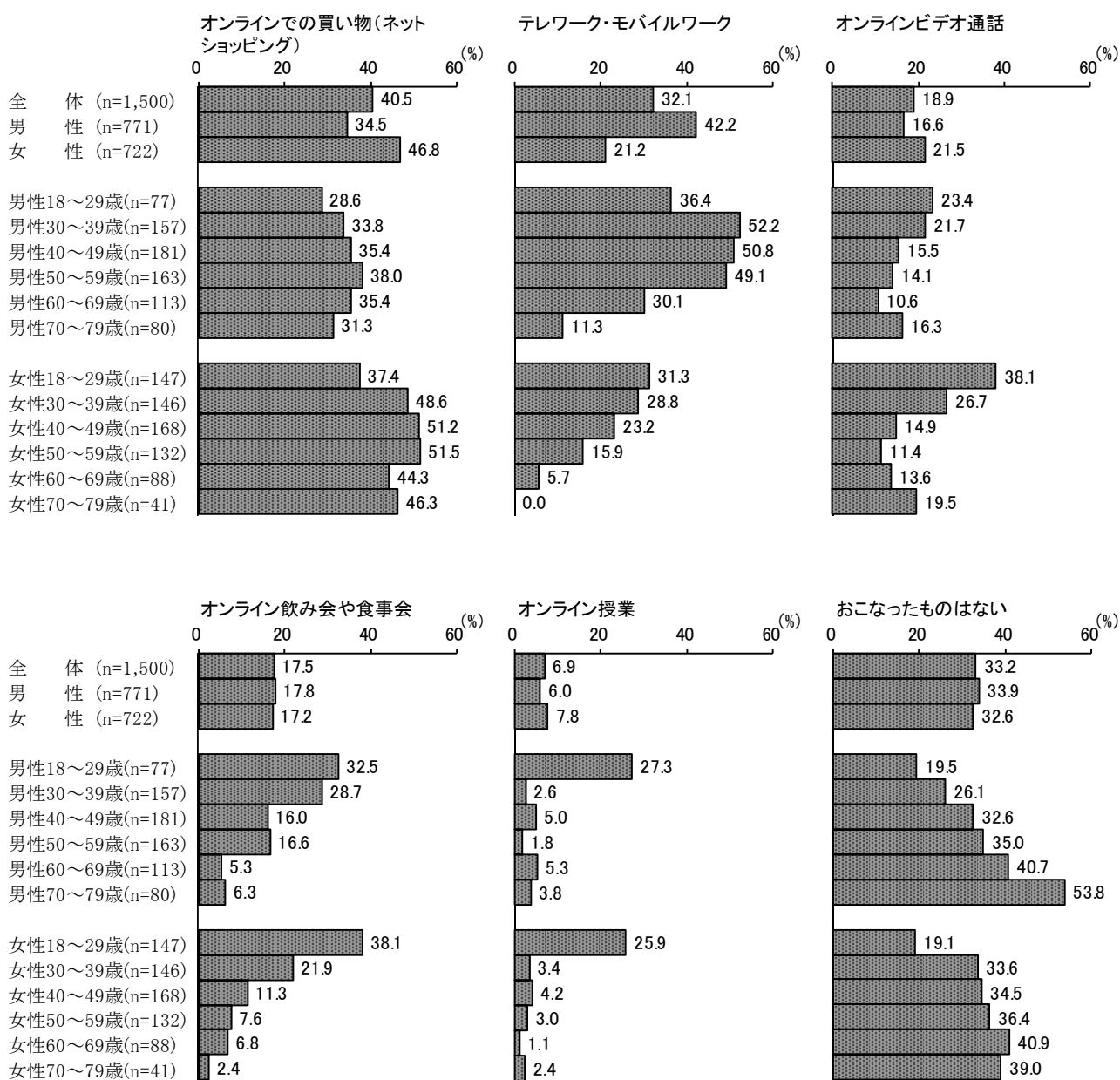
「オンラインでの買い物(ネットショッピング)」が40.5%と最も多く、次いで「テレワーク・モバイルワーク」(32.1%)、「オンラインビデオ通話」(18.9%)と続いている。一方で、「おこなったものはない」は33.2%と約3割であった。

【図表 11】 新型コロナウイルス感染症発生後のオンライン通信を利用した行動（複数回答）



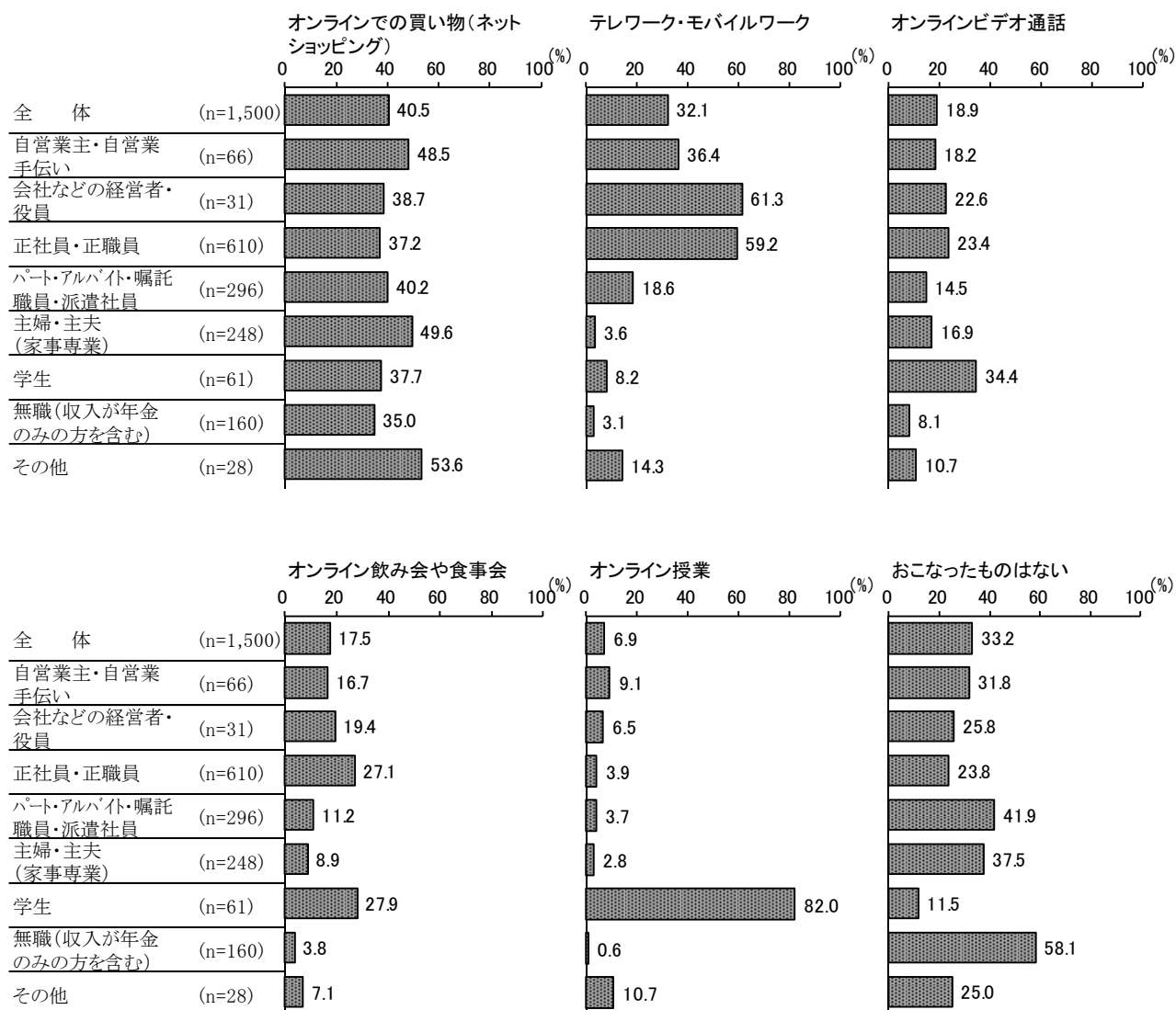
性／年齢別に見ると、「オンラインでの買い物（ネットショッピング）」は男性よりも女性の方が多く、特に女性の40歳代～50歳代では5割を超えている。「テレワーク・モバイルワーク」は男性の方が多く、特に30歳代～50歳代で5割前後と多い。「オンラインビデオ通話」、「オンライン飲み会や食事会」、「オンライン授業」は男女ともに18～29歳が最も多くなっている。一方で、「おこなったものはない」は概ね年齢が高くなるほど多く、特に男性70～79歳は5割を超えて多くなっている。

【図表 12】新型コロナウイルス感染症発生後のオンライン通信を利用した行動（複数回答）《上位6項目》
（性／年齢別）



職業別に見ると、「テレワーク・モバイルワーク」は「会社などの経営者・役員」、「正社員・正職員」では6割前後となっているが、「パート・アルバイト・嘱託職員・派遣社員（正社員・正職員以外）」では18.6%にとどまっている。また、「オンライン授業」は学生の82.0%が行っていると回答している。

【図表 13】新型コロナウイルス感染症発生後のオンライン通信を利用した行動（複数回答）《上位6項目》
（職業別）



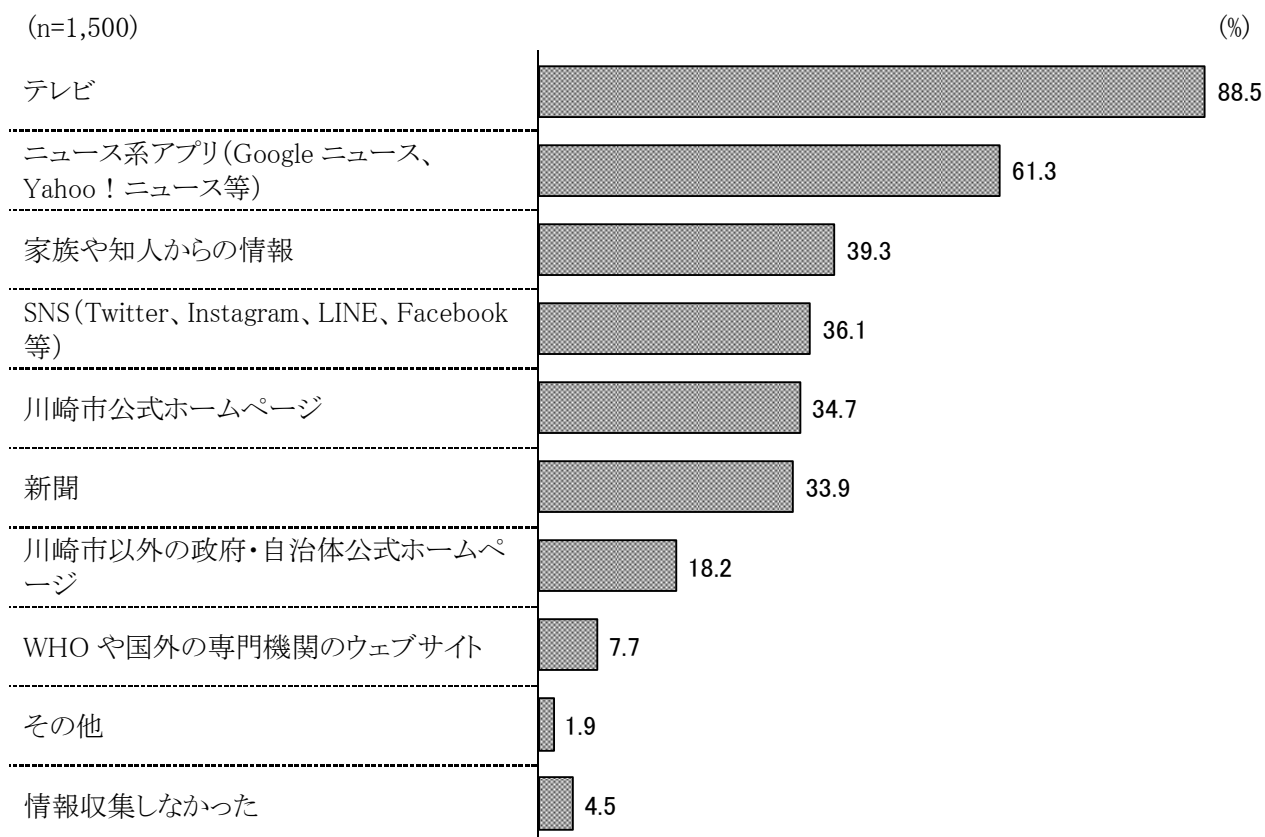
(5) 新型コロナウイルス感染症についての情報源

Q5. 新型コロナウイルス感染症の情報源について、あてはまるものを選んでください。

① 利用したことがあるもの

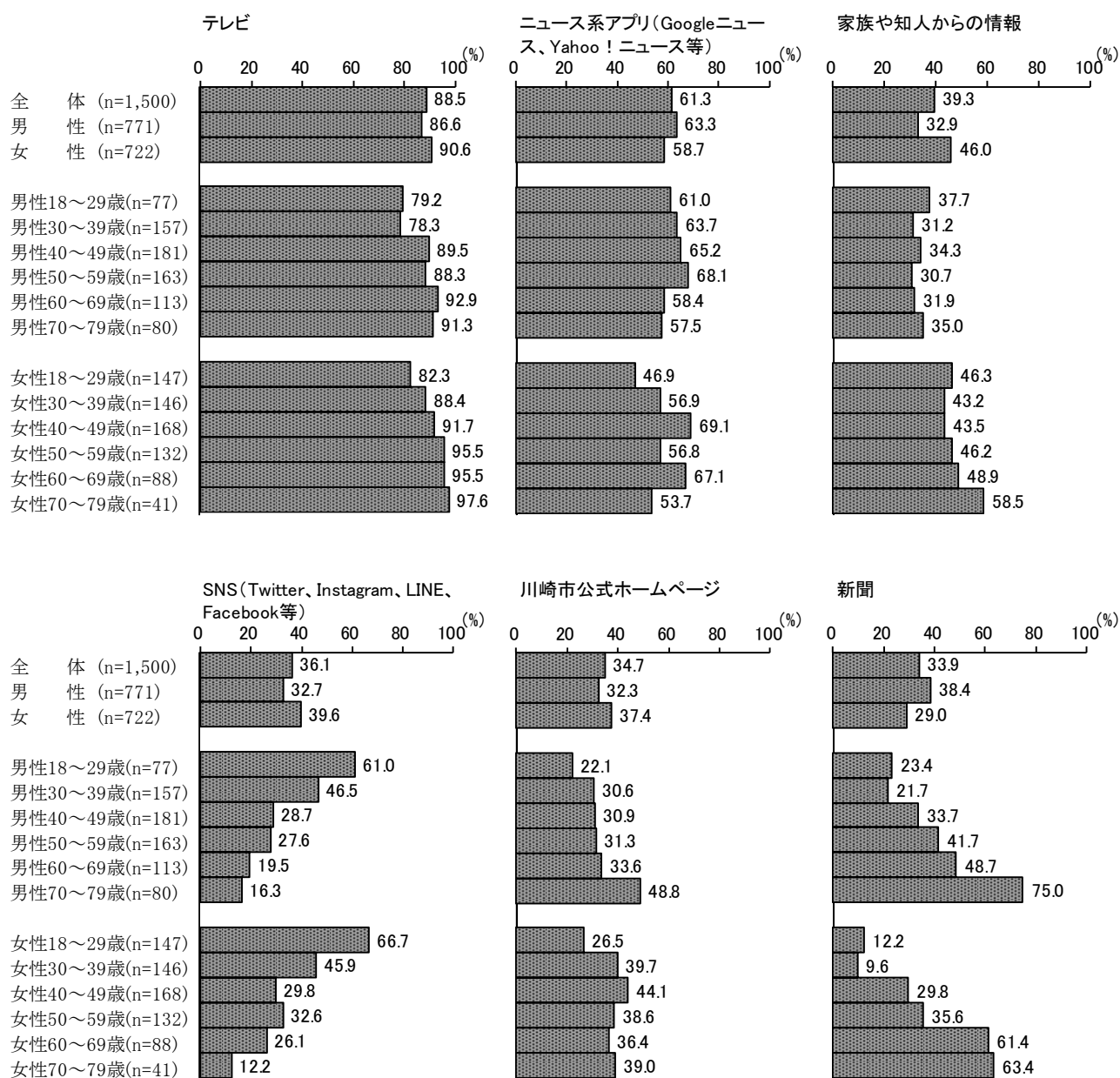
「テレビ」が88.5%と最も多く、次いで「ニュース系アプリ（Google ニュース、Yahoo！ニュース等）」（61.3%）、「家族や知人からの情報」（39.3%）と続いている。一方で、「情報収集しなかった」は4.5%であった。

【図表 14】 新型コロナウイルス感染症についての情報源／利用したことがあるもの（複数回答）

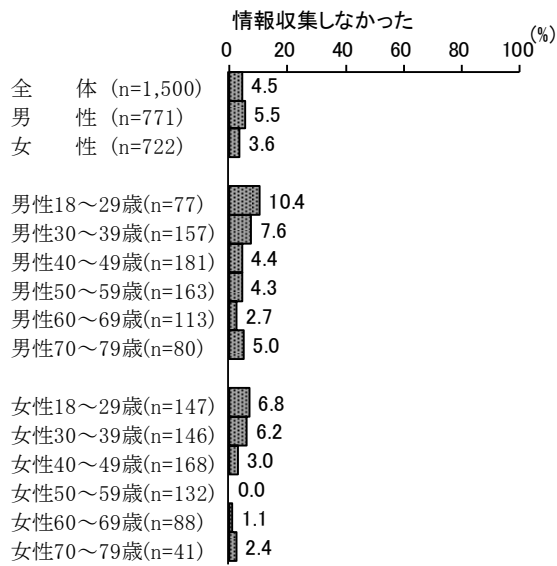
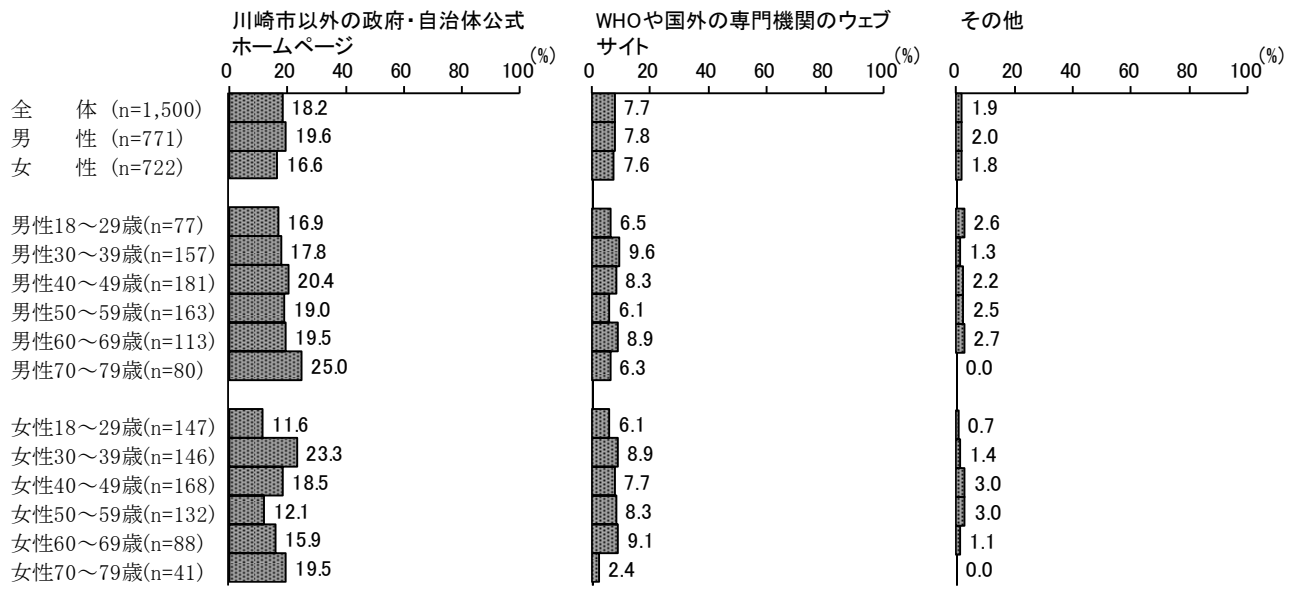


性／年齢別に見ると、「テレビ」「新聞」は男女ともに18～29歳や30～39歳では比較的少なく、概ね年齢が高くなるほど多くなっており、「SNS (Twitter、Instagram、LINE、Facebook等)」は男女ともに18～29歳が最も多く、概ね年齢が低くなるほど少なくなっている。「家族や知人からの情報」は男性では年齢により大きな違いは見られないが、女性では概ね年齢が高くなるほど多くなっている。

【図表 15】新型コロナウイルス感染症についての情報源／利用したことがあるもの（複数回答）
（性／年齢別）



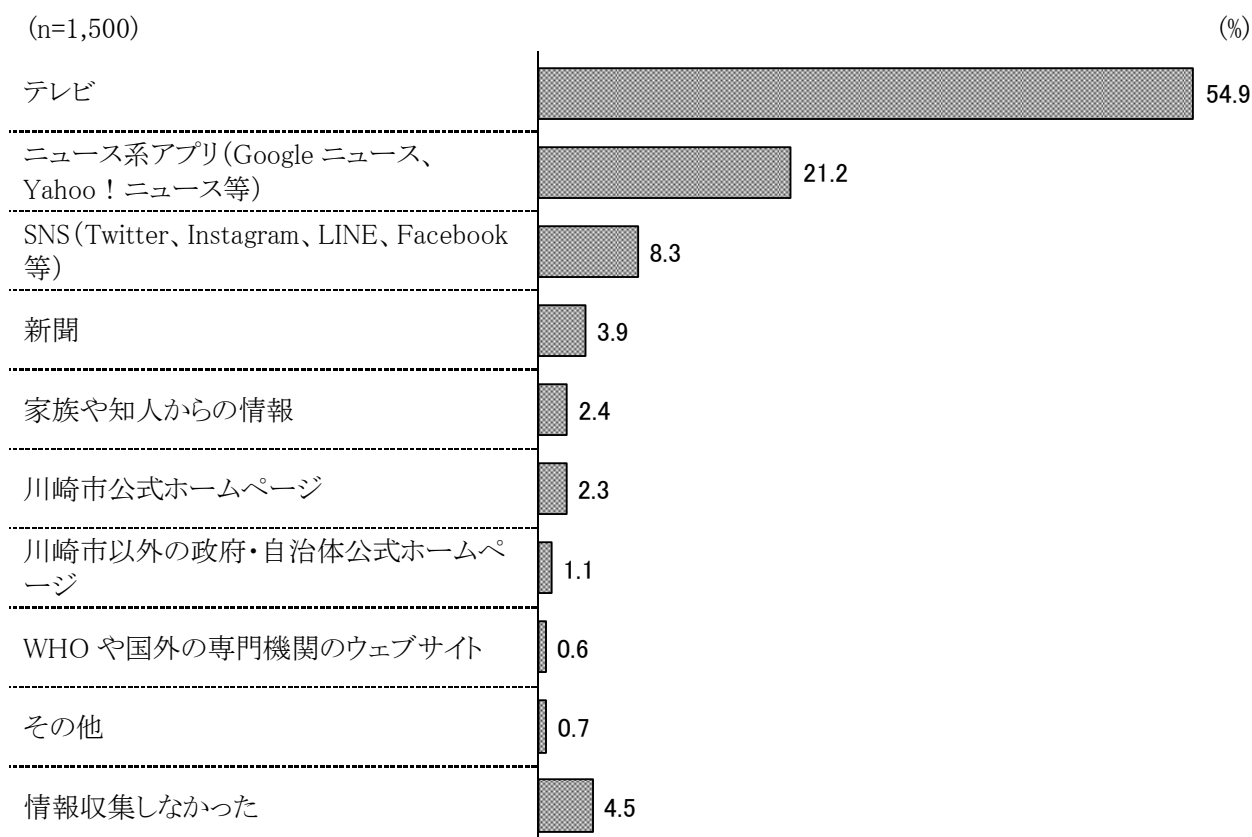
(第1回アンケート)



② 最もよく利用したもの

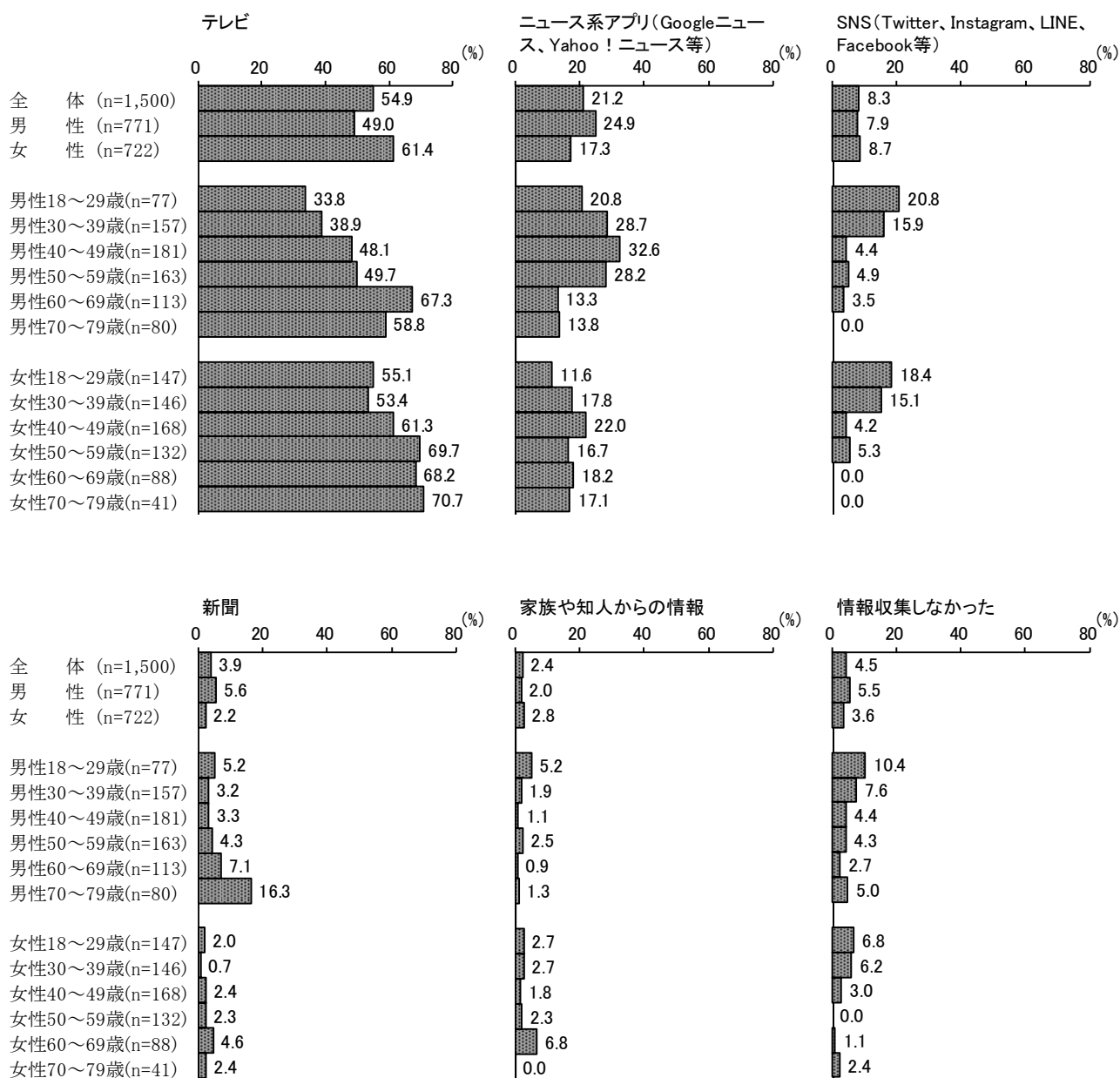
「テレビ」が54.9%と最も多く、次いで「ニュース系アプリ（Google ニュース、Yahoo！ニュース等）」（21.2%）、「SNS（Twitter、Instagram、LINE、Facebook 等）」（8.3%）と続いている。

【図表 16】新型コロナウイルス感染症についての情報源／最もよく利用したもの



性／年齢別に見ると、「テレビ」は概ね年齢が高くなるほど多く、「SNS (Twitter、Instagram、LINE、Facebook 等)」は概ね年齢が低くなるほど多くなっている。「ニュース系アプリ (Google ニュース、Yahoo! ニュース等)」は男女ともに40～49歳で最も多い。「新聞」は男性70～79歳で16.3%と特に多くなっている。

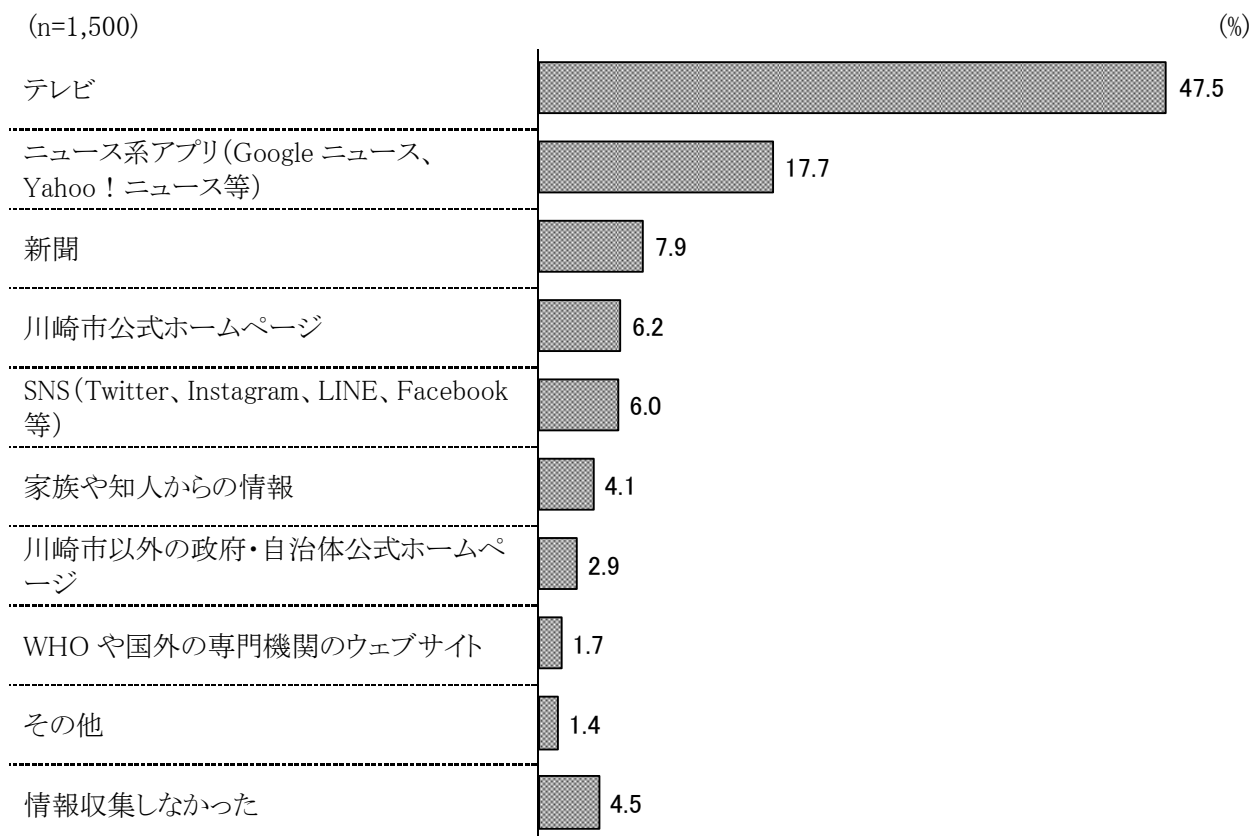
【図表 17】新型コロナウイルス感染症についての情報源／最もよく利用したもの 《上位6項目》
(性／年齢別)



③ 最も信頼していたもの

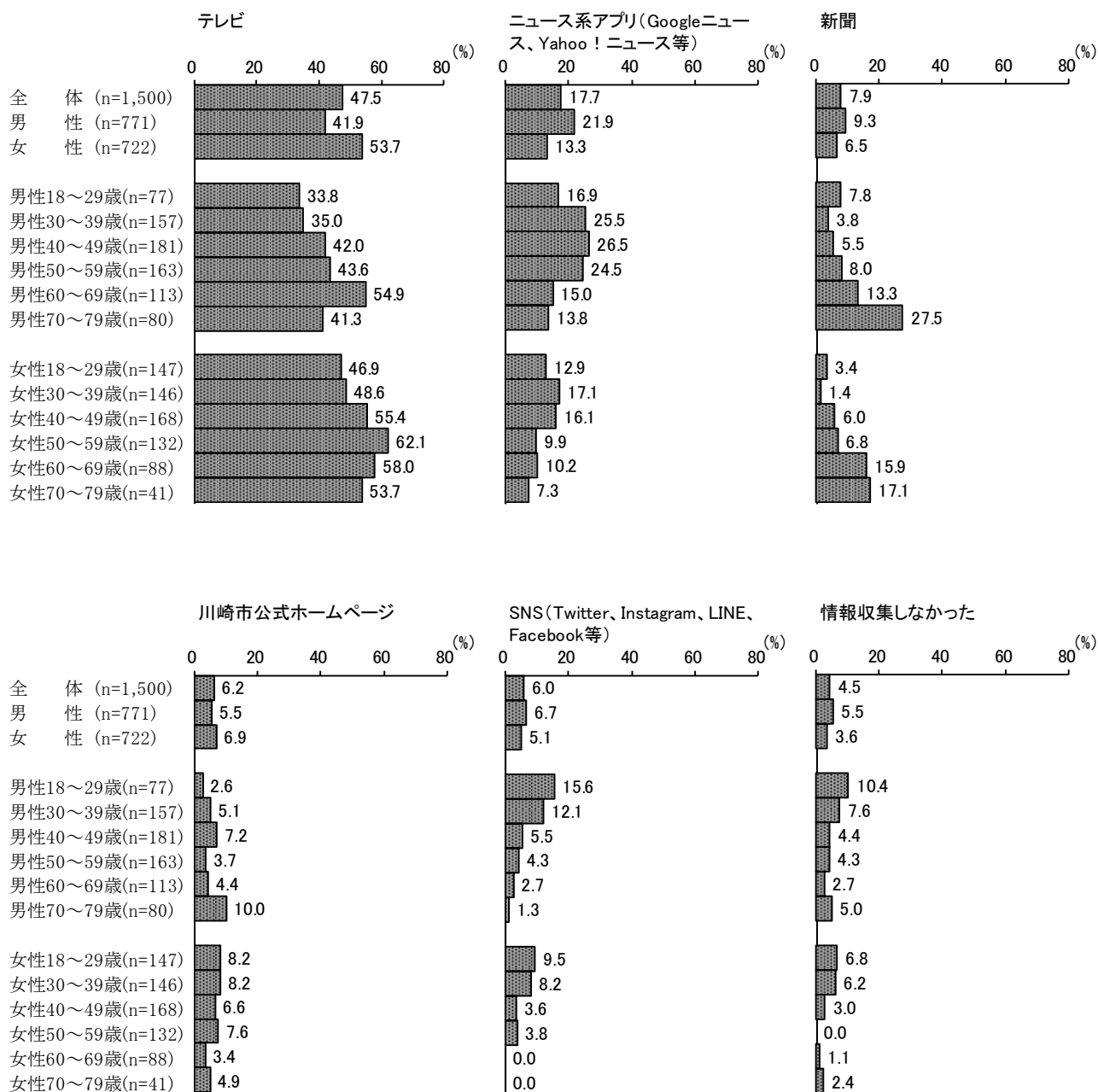
「テレビ」が47.5%と最も多く、次いで「ニュース系アプリ（Google ニュース、Yahoo！ニュース等）」（17.7%）、「新聞」（7.9%）と続いている。最もよく利用したものでは3番目に多かった「SNS（Twitter、Instagram、LINE、Facebook等）」（6.0%）はここでは5番目となっている。

【図表 18】新型コロナウイルス感染症についての情報源／最も信頼していたもの



性／年齢別に見ると、「テレビ」は18～29歳や30～39歳の若年層で比較的少なく、男性は60～69歳、女性は50～59歳で最も多くなっている。「新聞」は概ね年齢が高くなるほど多く、特に男性70～79歳では27.5%と多い。「SNS (Twitter、Instagram、LINE、Facebook等)」は男女ともに18～29歳が最も多く、概ね年齢が高くなるほど少なくなっている。

【図表 19】新型コロナウイルス感染症についての情報源／最も信頼していたもの 《上位6項目》
(性／年齢別)

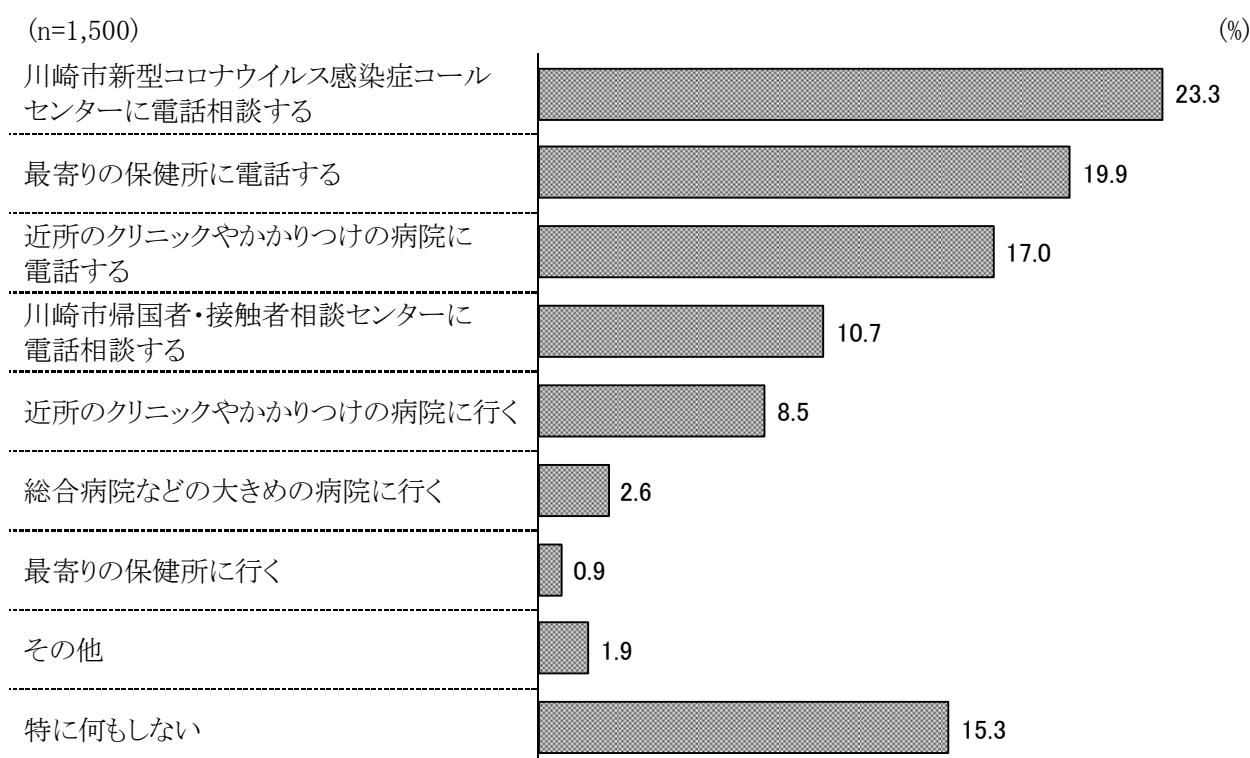


(6) 倦怠（けんたい）感が現れたり、発熱した場合にとる行動

Q6. 現在、あなたに倦怠（けんたい）感が現れたり、発熱した場合、あなたはどのような行動をとりますか。最もあてはまる項目を、次の中から1つだけ選んでください。

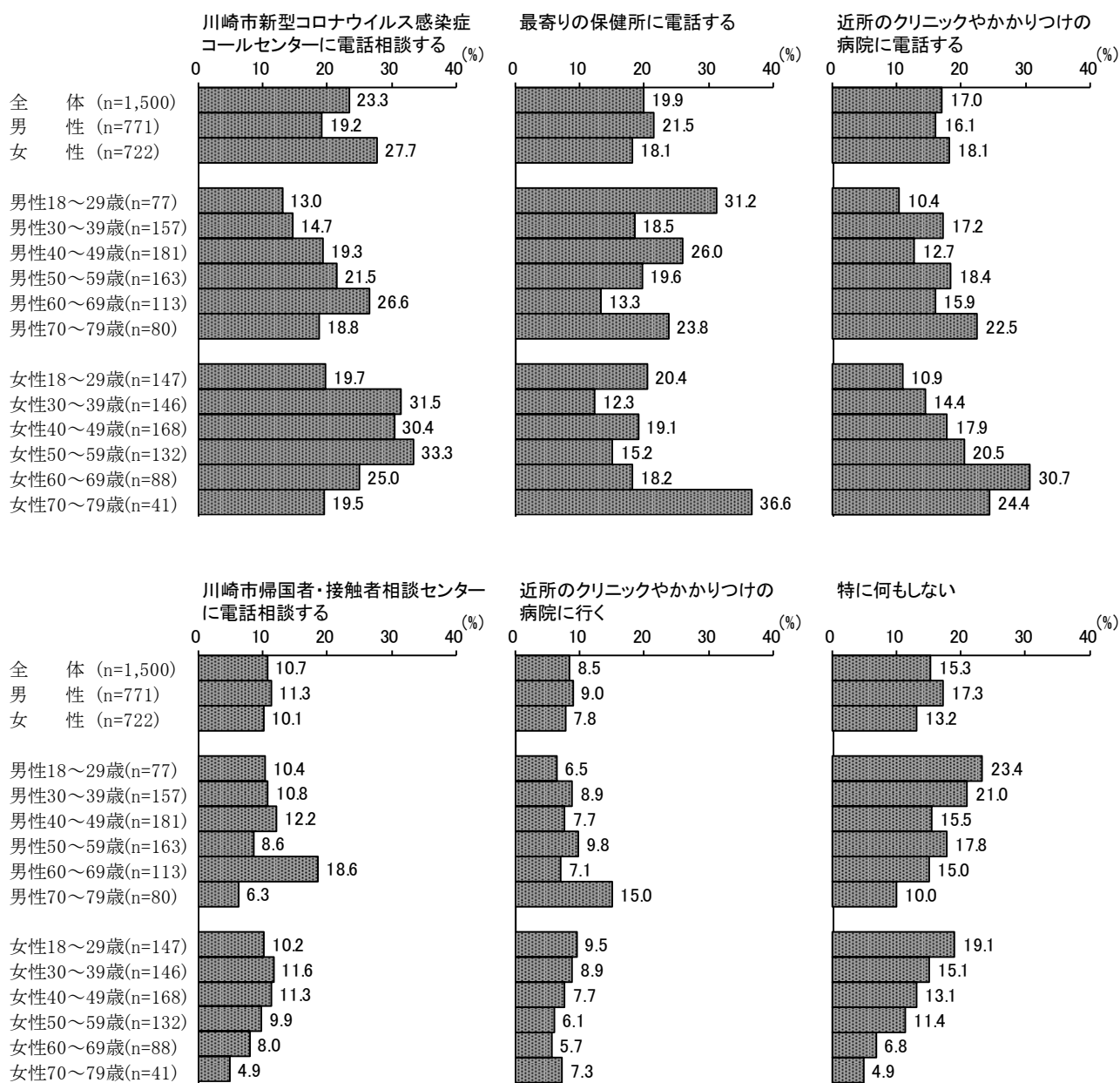
「川崎市新型コロナウイルス感染症コールセンターに電話相談する」が23.3%と最も多く、次いで「最寄りの保健所に電話する」（19.9%）、「近所のクリニックやかかりつけの病院に電話する」（17.0%）と続いている。一方で、「特に何もしない」は15.3%であった。

【図表 20】倦怠（けんたい）感が現れたり、発熱した場合にとる行動



性／年齢別に見ると、「川崎市新型コロナウイルス感染症コールセンターに電話相談する」は女性の方が多く、特に30歳代～50歳代では3割を超えて多くなっている。「最寄りの保健所に電話する」は女性では70～79歳が、男性では18～29歳が最も多い。「近所のクリニックやかかりつけの病院に電話する」は男女ともに18～29歳が最も少なく、女性60～69歳が30.7%と最も多い。「川崎市帰国者・接触者相談センターに電話相談する」では男性60～69歳が、「近所のクリニックやかかりつけの病院に行く」では男性70～79歳が特に多くなっている。一方で、「特に何もしない」は男女ともに18～29歳が最も多く、概ね年齢が高くなるほど少ない。

【図表 21】 倦怠（けんたい）感が現れたり、発熱した場合にとる行動 《上位6項目》
(性／年齢別)



Q2の「新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心」の回答別に見ると、「川崎市新型コロナウイルス感染症コールセンターに電話相談する」と「川崎市帰国者・接触者相談センターに電話相談する」では「非常に恐怖心を感じている」人が最も多くなっている。一方で、「特に何もしない」は恐怖心を感じていない人ほど多く、「ほとんど恐怖心を感じていない」人は47.9%とほぼ半数であった。

【図表 22】 倦怠（けんたい）感が現れたり、発熱した場合にとる行動 <<上位6項目>>
(「新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心」回答別)

